

がん患者在宅医療に関する調査 報告書

Mar 31, 2022

SHIMOYAMA, Satofumi, M.D.

Aichi Cancer Hospital

目次

I. 調査概要	P3
II. 対象者プロフィール	P6
III. 調査結果要約	P12
IV. 調査結果詳細	P23

調査の背景／目的

背景

- 現在、がん診療における在宅医療（在宅ケア）は、治療が終了してしまっからうける、いわば最後の医療のように思われていることが多い。
- しかし、実際には病院での抗がん治療などと並行して在宅医療を受けることで、抗がん治療による様々な困りごとを解決しつつ、抗がん治療を続けていくことができると考えられている。
- そこで、一般のがん患者さんがどの程度在宅医療を認知しており、どんな印象であるか、またどのようにしたら在宅医療を受けたいと思えるかなど、今後のがん医療をより快適に受けていただくために必要な情報を得ることを目的として、市場調査を実施する運びとなった。

調査目的


- **目的**
 - がん治療中の患者さんが、在宅医療（在宅ケア）に関して知っていることや気がかりや不安に思っていることを明らかにする
- **明らかにすべき課題**
 - がん治療中の患者さんの在宅医療に関する印象や知識を把握する
 - 在宅医療を病院での医療と併用することの是非や整えておくべきことを把握する
- **調査結果の活用**
 - 患者さんがよりよい医療・ケアをどの場所でも受けていただける体制を構築していくために資する


調査概要


調査手法	インターネット調査：スクリーニング調査 及び 本調査																				
調査地域	全国																				
調査対象者 (本調査対象者 条件)	20～79歳の男女 楽天インサイトパネルに対してスクリーニング調査を実施 下記条件該当者を本調査の対象者とする ・ がんを罹患しており、現在も治療を続けている患者 ※治療には「経過観察のための通院」も含める																				
設問数	スクリーニング調査：3問 本調査：36問																				
サンプルサイズ	本調査：n=1,000																				
サンプル割付	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>(n)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">性別</td> <td>男性</td> <td>(565)</td> </tr> <tr> <td>女性</td> <td>(435)</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">年代</td> <td>30代以下</td> <td>(36)</td> </tr> <tr> <td>40代</td> <td>(160)</td> </tr> <tr> <td>50代</td> <td>(252)</td> </tr> <tr> <td>60代</td> <td>(356)</td> </tr> <tr> <td>70代</td> <td>(196)</td> </tr> </tbody> </table> <p style="color: red; margin-left: 200px;">*回収時のサンプル割付は行っていない</p>				(n)	性別	男性	(565)	女性	(435)	年代	30代以下	(36)	40代	(160)	50代	(252)	60代	(356)	70代	(196)
		(n)																			
性別	男性	(565)																			
	女性	(435)																			
年代	30代以下	(36)																			
	40代	(160)																			
	50代	(252)																			
	60代	(356)																			
	70代	(196)																			
実査期間	2022年3月28日（月）～3月30日（水）																				

Ⅱ.対象者プロフィール

※数表内の網掛け

 1位の項目

 2位の項目

 3位の項目

但しn=30未満は除く、以降のページも同様

n=30未満は参考値（グレーアウト）
2%未満は横帯100%グラフ上は、非表示

性別

Q31.あなたの性別をお答えください。

対象：全員

		(n)	男性	女性
全体		(1,000)	57	44
性別	男性	(565)	100	
	女性	(435)		100
年代	30代以下	(36)	17	83
	40代	(160)	23	78
	50代	(252)	35	65
	60代	(356)	73	27
	70代	(196)	89	11
がん種	頭頸部がん	(74)	55	45
	胃がん	(47)	96	4
	肺がん	(64)	75	25
	腎がん	(35)	91	9
	肝臓がん	(34)	85	15
	乳がん	(275)		99
	膀胱がん	(33)	94	6
	大腸がん	(96)	81	19
	前立腺がん	(149)	100	
	子宮がん	(40)		100
血液がん	(78)	79	21	

※ 2%未満のグラフスコアは非表示 (%)

年代

対象：全員

		(n)	20代	30代	40代	50代	60代	70代
全体		(1,000)	3	16	25	36		20
性別	男性	(565)	6	16	46			31
	女性	(435)	6	29	38		22	5
年代	30代以下	(36)	14	86				
	40代	(160)		100				
	50代	(252)		100				
	60代	(356)		100				
	70代	(196)		100				
がん種	頭頸部がん	(74)	4	14	31	32		19
	胃がん	(47)	2	11	53		34	
	肺がん	(64)	5	11	22	34	28	
	腎がん	(35)		26	60		14	
	肝臓がん	(34)	6	9	6	53	26	
	乳がん	(275)	4	31	40	21	5	
	膀胱がん	(33)		12	55		33	
	大腸がん	(96)	2	8	28	46	16	
	前立腺がん	(149)	3		50		46	
	子宮がん	(40)	5	18	33	28	15	3
	血液がん	(78)	4	22	33	24	15	

※ 2%未満のグラフスコアは非表示 (%)

性年代

対象：全員

		(n)	男性20代	男性30代	男性40代	男性50代	男性60代	男性70代	女性20代	女性30代	女性40代	女性50代	女性60代	女性70代	
全体		(1,000)	4	9	26		17		3	12		16	10	2	
性別	男性	(565)	6	16			46						31		
	女性	(435)	6		29				38			22		5	
年代	30代以下	(36)	3	14	11				72						
	40代	(160)		23					78						
	50代	(252)			35				65						
	60代	(356)				73						27			
	70代	(196)					89							11	
がん種	頭頸部がん	(74)	5	12		23		15	4	8		19	9	4	
	胃がん	(47)	2	11			49					34		4	
	肺がん	(64)		11	11		23		28		3	11		11	
	腎がん	(35)			20			57				14		6	3
	肝臓がん	(34)	3	3	6		47				26		3	6	6
	乳がん	(275)		4		31			40				20		4
	膀胱がん	(33)		6			55					33			6
	大腸がん	(96)	2	5		21		40			14	3	7	6	2
	前立腺がん	(149)		3			50					46			
	子宮がん	(40)		5		18		33			28			15	3
	血液がん	(78)			14		28		22		14	3	8	5	3

※ 2%未満のグラフスコアは非表示 (%)

職業

Q29.現在のあなたの職業をお知らせください。

対象：全員

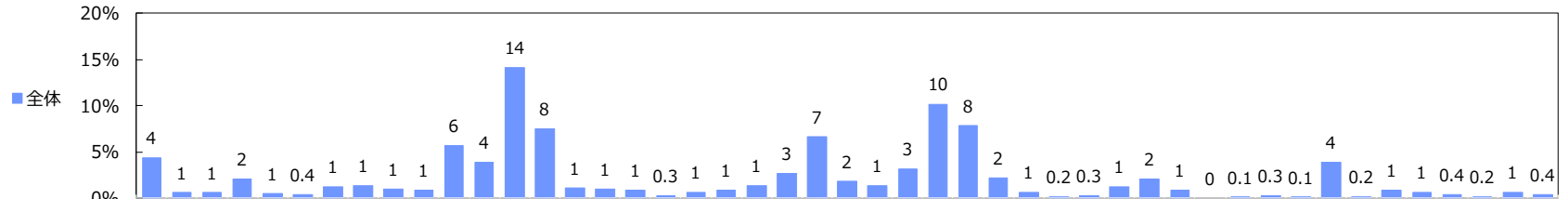
		(n)	会社員	公務員・ 団体職員	専門家（医 師・弁護士・ 会計士など）	自営業・自由 業（フリーラ ンス）	派遣・ 契約社員	パート・ アルバイト	専業主婦／ 主夫・ 家事手伝い	定年退職後・ 無職・ 学生	その他
全体		(1,000)	26	4	8	6	12	14	29		
性別	男性	(565)	30	4	10	5	5	43			
	女性	(435)	22	3	5	6	22	30	11		
年代	30代以下	(36)	39	6	3	6	3	8	19	17	
	40代	(160)	38	8	7	22	19	4			
	50代	(252)	39	6	3	6	3	16	19	8	
	60代	(356)	22	6	8	8	10	10	34		
	70代	(196)	6	10	3	3	7	70			
がん種	頭頸部がん	(74)	27	5	3	5	12	18	28		
	胃がん	(47)	32	4	13	4	4	43			
	肺がん	(64)	28	5	5	6	6	47			
	腎がん	(35)	37	3	3	20	3	6	9	20	
	肝臓がん	(34)	18	3	15	6	9	6	41	3	
	乳がん	(275)	25	3	5	7	23	26	10		
	膀胱がん	(33)	21	6	12	15	42	3			
	大腸がん	(96)	28	7	13	6	13	5	27		
	前立腺がん	(149)	21	5	8	5	3	56			
	子宮がん	(40)	23	5	3	5	8	18	33	8	
	血液がん	(78)	31	6	4	10	5	3	13	28	

※ 2%未満のグラフスコアは非表示 (%)

都道府県

Q33.あなたがお住まいの都道府県をお答えください。

対象：全員



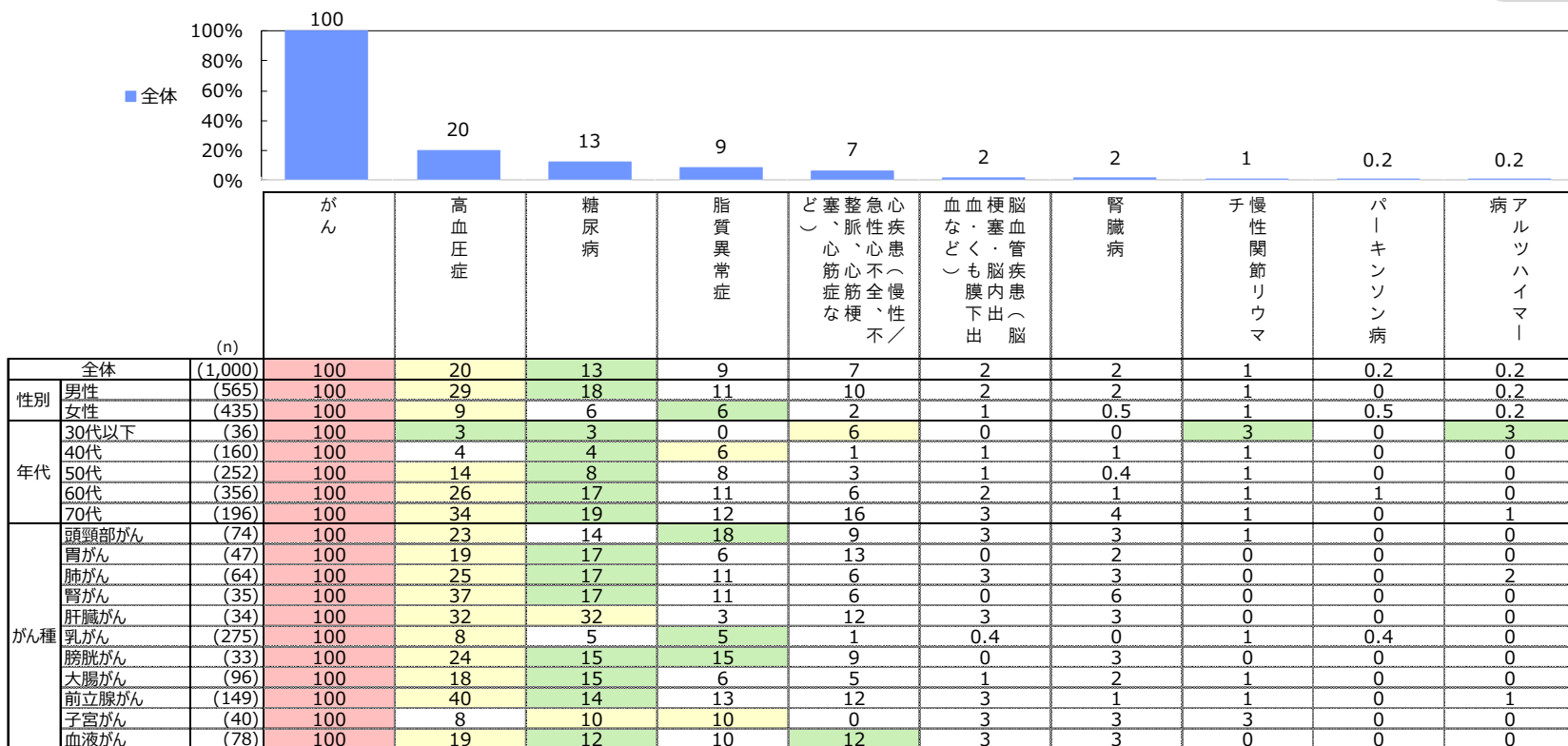
		(n)	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県			
全体		(1,000)	4	1	1	2	1	0.4	1	1	1	1	2	6	4	14	8	1	1	1	0.3	1	1	1	3	7	2	1	3	10	8	2	1	0.2	0.3	1	2	1	0	0.1	0.3	0.1	4	0.2	1	1	0.4	0.2	1	0.4		
性別	男性	(565)	5	0.4	1	2	0.2	1	2	1	1	2	6	5	14	7	1	1	1	0	1	1	2	2	6	2	2	3	10	7	2	0.4	0.4	0.4	1	2	1	0	0.2	0.2	0	4	0	1	1	0.2	0.2	1	0.2			
	女性	(435)	4	1	0.5	2	1	0.2	1	2	1	0	6	2	14	8	1	0.5	1	1	0.2	1	1	3	7	2	1	3	11	9	2	1	0	0.2	2	2	1	0	0	0.5	0.2	4	0.5	1	1	1	0.2	1	1			
年代	30代以下	(36)	0	6	6	3	0	0	0	0	0	0	8	3	11	3	0	3	0	0	0	6	3	3	6	6	0	3	6	11	0	8	0	0	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3			
	40代	(160)	4	1	1	1	1	0	0	1	1	1	6	2	16	9	0	1	1	1	1	2	9	2	1	4	9	6	3	0	0	0	2	2	0	0	1	0	0	5	1	3	1	0	0	1	1					
	50代	(252)	4	0	0.4	3	1	0.4	2	2	0.4	0.4	4	5	13	6	2	0.4	1	0.4	0	0	1	3	7	2	1	3	14	8	2	0.4	0	0	2	2	1	0	0	0.4	0.4	5	0	1	1	1	0	0	0			
	60代	(356)	6	1	0.3	2	1	1	2	2	2	1	5	4	15	8	1	1	1	0	1	1	2	3	6	1	1	4	9	8	2	0.3	1	1	1	2	1	0	0	1	0	3	0	1	0.3	1	1	1	0			
	70代	(196)	3	1	1	2	0	1	1	1	1	1	7	5	12	9	2	2	0	0	1	1	2	3	6	1	4	3	10	9	3	1	0	1	1	1	3	2	0	0	0	4	0	1	1	0	0	2	1			
がん種	頭頸部がん	(74)	3	0	3	4	0	0	1	0	0	1	5	1	7	8	0	0	1	0	3	0	0	3	8	1	3	0	14	18	1	0	1	0	1	4	0	0	0	0	0	4	0	3	1	0	0	0	0			
	胃がん	(47)	2	2	0	2	0	0	4	0	2	0	2	0	15	13	0	0	0	0	0	0	2	6	2	0	6	15	2	2	0	0	2	6	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	2	0	0	2	0	2	0	
	肺がん	(64)	8	3	0	0	0	0	0	0	2	0	5	6	17	5	0	0	2	0	3	0	2	3	2	0	3	8	16	5	0	0	0	0	0	2	2	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3		
	腎がん	(35)	0	0	3	3	0	0	3	3	3	3	14	0	11	6	3	0	0	0	3	0	0	0	6	3	0	3	6	9	0	0	3	0	0	6	6	0	0	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	肝臓がん	(34)	9	0	0	0	0	0	3	0	0	0	6	6	12	3	0	3	0	3	3	3	6	0	3	3	6	6	6	6	3	0	0	0	6	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3	0		
	乳がん	(275)	4	1	0	2	1	0.4	1	2	1	0	7	1	17	7	2	0.4	1	1	0.4	1	1	4	7	3	1	4	11	6	1	1	0	0	1	1	1	0	0	0.4	0.4	5	0	1	0.4	1	0	1	0	1	0	
	膀胱がん	(33)	6	0	0	0	0	0	0	0	0	3	9	6	9	6	0	0	0	0	0	3	3	6	6	0	0	3	6	21	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	
	大腸がん	(96)	1	1	0	5	0	2	1	2	2	3	7	6	16	4	4	1	2	0	0	0	2	0	5	3	1	4	10	3	4	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	1	0	0	0	0	
	前立腺がん	(149)	7	0	1	3	1	1	1	1	1	0	5	5	13	10	0	2	0	0	1	1	3	3	4	1	3	11	8	2	0	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	1	0	1	0	1	0
	子宮がん	(40)	3	0	0	0	3	0	0	3	0	0	3	3	3	13	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	15	3	0	10	10	3	3	0	3	0	3	0	0	0	0	0	10	3	0	3	3	0	0	5		
	血液がん	(78)	8	0	1	1	0	0	1	3	0	3	3	5	14	8	1	1	1	1	0	0	1	1	10	1	4	3	9	4	3	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	5	0	1	1	0	1	0	0	0	

(%)

現在治療中の疾患

SC1.あなたの現在の病気や治療状況、日常生活の状況についてお伺いします。
 病院で診断を受けて、現在も治療を受けている疾患をお知らせください。（いくつでも）

対象：全員



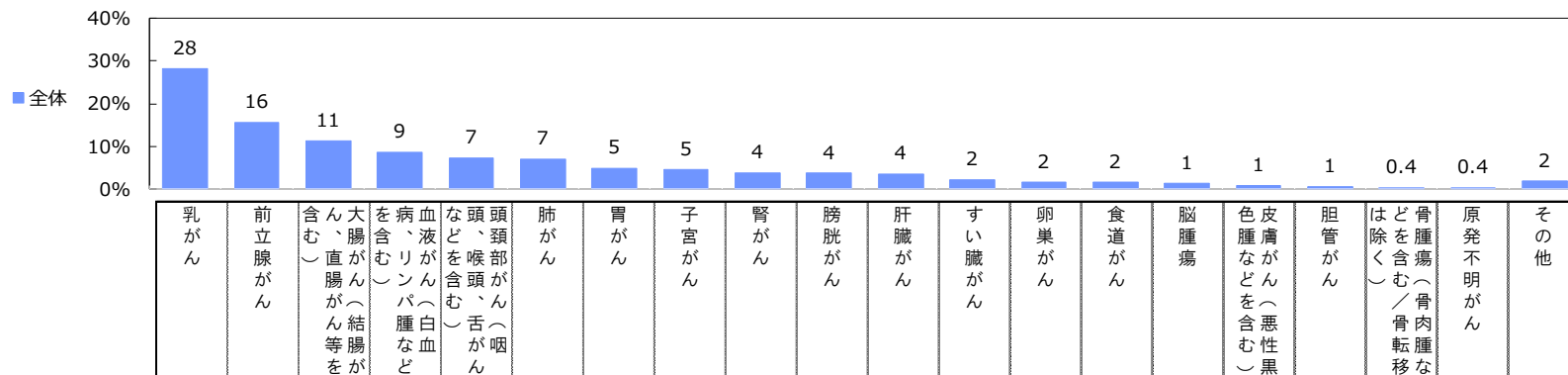
※全体で降順ソート

(%)

現在治療中のがんの種類

SC2.あなたが現在も病院で治療を受けているがんの種類をお知らせください。(いくつでも)

対象：全員





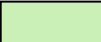
(n)		乳がん	前立腺がん	含ん、大腸がん(結腸を含む)	病、血液がん(リンパ腫などを含む)	頭、頭部がん(喉頭、舌などを含む)	頭、頭部がん(咽頭、舌などを含む)	肺がん	胃がん	子宮がん	腎臓がん	膀胱がん	肝臓がん	すい臓がん	卵巣がん	食道がん	脳腫瘍	皮膚がん(悪性黒色腫などを含む)	胆管がん	は、骨腫瘍(骨肉腫などを含む)	骨腫瘍(骨肉腫などを含む)	原発不明がん	その他
全体	(1,000)	28	16	11	9	7	7	5	5	4	4	4	4	2	2	2	1	1	1	0.4	0.4	0.4	2
性別	男性	(565)	1	28	16	12	7	10	8	0	6	6	5	3	0	2	1	1	1	0.4	0.4	0.4	3
	女性	(435)	64	0	5	5	8	4	0.5	11	1	0.5	1	1	4	1	2	1	0.2	0.5	0.5	0.5	0.5
年代	30代以下	(36)	31	0	6	14	8	8	0	25	0	0	6	0	8	0	8	0	0	3	0	0	0
	40代	(160)	53	1	6	11	6	4	1	9	1	0	2	1	3	3	3	1	0	0	1	3	3
	50代	(252)	45	3	12	11	9	6	2	5	4	2	1	2	2	0.4	2	0.4	0.4	0	0.4	2	2
	60代	(356)	17	21	14	6	7	7	7	2	6	6	5	3	1	1	1	1	1	1	0	1	1
	70代	(196)	7	37	10	8	7	10	10	1	3	6	5	3	0	3	0	2	2	0	1	3	3
がん種	頭頸部がん	(74)	4	1	0	1	100	7	4	1	1	0	0	0	1	4	0	0	0	0	0	0	0
	胃がん	(47)	2	2	9	0	0	4	100	0	4	4	4	2	0	2	2	0	0	0	0	0	0
	肺がん	(64)	5	2	2	0	0	100	0	0	2	0	0	2	2	2	6	2	0	2	2	2	2
	腎臓がん	(35)	0	3	6	0	0	0	0	0	100	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
	肝臓がん	(34)	0	0	15	0	0	0	0	3	0	3	100	6	0	0	3	6	3	0	0	0	3
	乳がん	(275)	100	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0.4
	膀胱がん	(33)	0	3	3	3	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0
	大腸がん	(96)	0	3	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	前立腺がん	(149)	0	100	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	子宮がん	(40)	0	0	0	5	0	0	0	100	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0
血液がん	(78)	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

※全体で降順ソート

(%)

Ⅲ.調査結果要約

※数表内の網掛け

-  1位の項目
-  2位の項目
-  3位の項目

但しn=30未満は除く、以降のページも同様

n=30未満は参考値（グレーアウト）
2%未満は横帯100%グラフ上は、非表示

総括1:在宅医療(在宅ケア)の認知状況と経験の有無

- 「内容まで知っている」(TOP2)の割合は38%、「内容まで詳しく知っている」は7%であった。
- セグメント別では、30代以下、胃、肝臓、前立腺や子宮がん患者でTOP2の割合が高かった。
- 在宅ケア経験ありの割合は、本人で2%、家族や友人で10%であった。
- セグメント別では、違いは殆ど見られなかったが、本人では肝臓がん、家族や友人では胃がん患者で割合が高かった。

対象：全員

		(n)	内容まで詳しく知っている	ある程度、内容まで知っている	名前を聞いたことがある程度	知らない	内容まで認知(TOP2)	在宅ケア経験あり	
								本人	家族・友人
全体		(1,000)	7	31	55	7	38	2	10
性別	男性	(565)	5	34	54	7	38	3	10
	女性	(435)	10	28	55	7	38	1	10
年代	30代以下	(36)	17	36	36	11	53	6	11
	40代	(160)	8	30	54	8	38	3	13
	50代	(252)	10	25	57	8	35	2	10
	60代	(356)	5	35	54	6	40	3	10
	70代	(196)	4	33	56	7	37	2	7
がん種	頭頸部がん	(74)	11	23	55	11	34	1	14
	胃がん	(47)	4	43	43	11	47	6	17
	肺がん	(64)	5	31	58	6	36	2	8
	腎がん	(35)	6	23	63	9	29	6	11
	肝臓がん	(34)	9	44	47		53	9	9
	乳がん	(275)	7	28	57	8	35	0	12
	膀胱がん	(33)	3	24	73		27	0	9
	大腸がん	(96)	6	27	57	9	33	3	6
	前立腺がん	(149)	3	40	49	8	43	1	9
	子宮がん	(40)	13	35	45	8	48	3	3
	血液がん	(78)	5	29	59	6	35	3	5

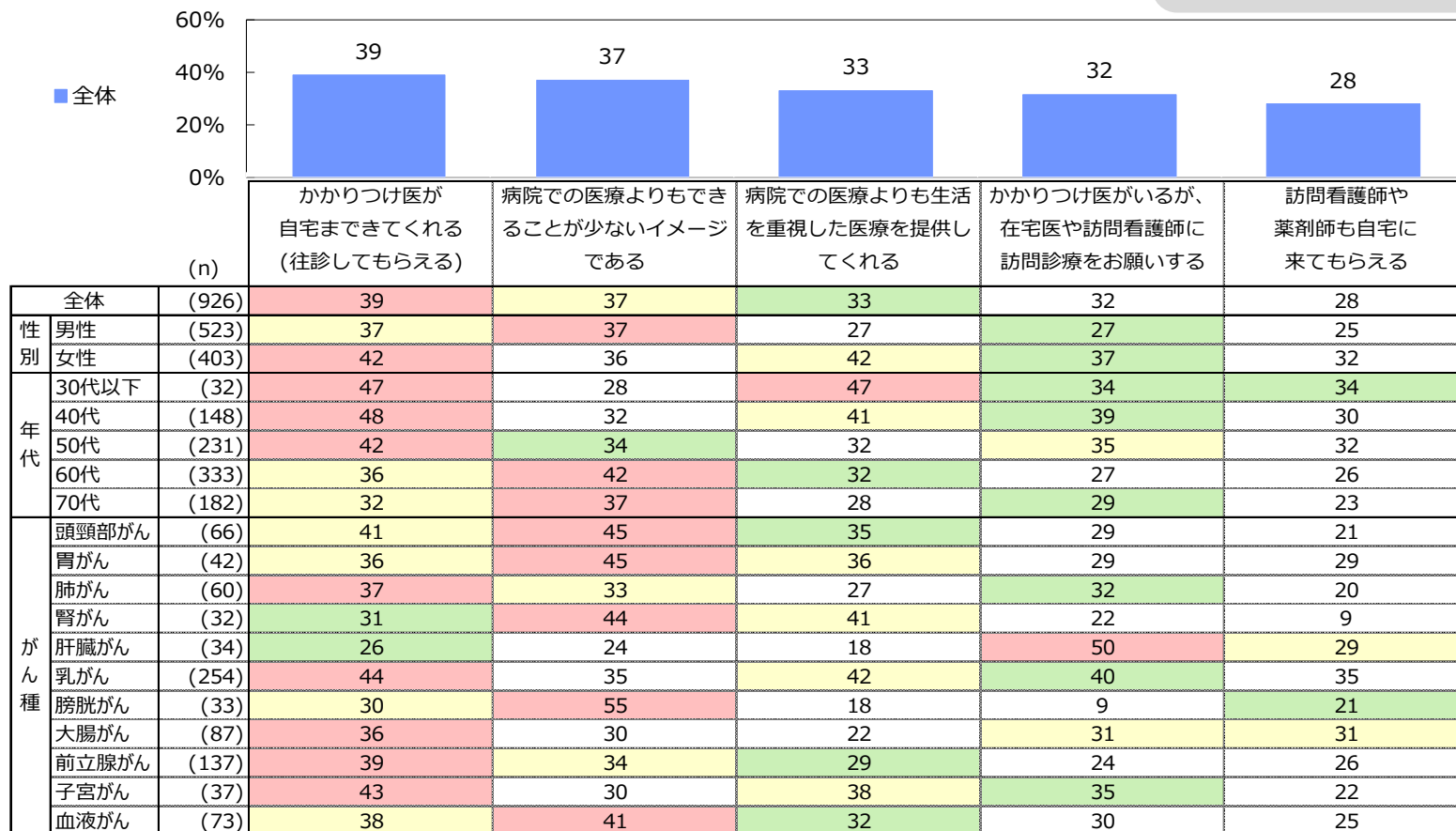
○ 全体よりも5pts以上高いセグメント

(%)

総括2:在宅医療(在宅ケア)の印象 (上位5項目抜粋)

- 「かかりつけ医が自宅まできてくれる」の割合が最も高く、次いでほぼ同等の割合で「病院での医療よりもできることが少ないイメージ」であった。
- セグメント別では、上位2項目以外に、30代以下では「病院での医療よりも生活を重視した医療を提供してくれる」、肝臓がんでは「かかりつけ医がいるが、在宅医や訪問看護師に訪問診療をお願いする」の割合が最も高かった。

対象：在宅医療（在宅ケア）認知者



※全体で降順ソート

(%)

総括3-1:在宅医療(在宅ケア)の治療選択肢を提供されたい タイミング_性別、年代別 *情報提供も含む

- 「⑧:積極的治療後、または効果的な手術治療やがん治療の選択肢がなくなった後」のタイミングを希望している割合が最も高く、次いで「⑦:再発が確認されて、抗がん剤治療を繰り返しているが副作用などで生活に支障が出てきているとき」であった。
- セグメント別では、大きな違いは見られなかったが、30代以下では「⑩:選択肢を提供されたくない」の割合が高かった。

①がんの告知を受けた後
 ②完全にがんを治す(消す)ための初めての手術治療や抗がん治療を開始する前
 ③完全にがんを治す(消す)ための初めての手術治療や抗がん治療を開始した後
 ④一連の治療で完全にがんが治った(消えた)と主治医から伝えられている状態
 ⑤再発が確認されて、再度抗がん治療(薬物療法や放射線療法など)を開始した時
 ⑥再発が確認されて、抗がん治療を繰り返しているがあまり生活に支障のある副作用はないとき
 ⑦再発が確認されて、抗がん治療を繰り返しているが副作用などで生活に支障が出てきているとき
 ⑧積極的治療終了後、または効果的な手術治療やがん治療の選択肢がなくなった後
 ⑨その他
 ⑩在宅医療(在宅ケア)による治療の選択肢を提供されたくない

		(n)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
全体		(1,000)	12	4	6	6	6	4	20	30		12
性別	男性	(565)	12	4	6	8	6	3	19	29		13
	女性	(435)	11	5	6	3	6	5	22	31		11
年代	30代以下	(36)	14	6	11	3	17		31			19
	40代	(160)	16	6	6	3	5		21	33		9
	50代	(252)	13	4	7	3	7	5	19	34		7
	60代	(356)	11	4	4	7	7	4	18	30		14
	70代	(196)	6	5	7	11	4	3	24	23		14

①-④	⑤-⑦	⑧	⑩
再発前のタイミング	再発後のタイミング	積極的治療終了後	提供されたくない
28	30	30	12
30	28	29	13
26	32	31	11
31	19	31	19
31	28	33	9
27	31	34	7
26	29	30	14
29	32	23	14

○ 全体よりも5pts以上高いセグメント

※ 2%未満のグラフスコアは非表示 (%)

(%)

総括3-1:在宅医療(在宅ケア)の治療選択肢を提供されたい タイミング_がん腫別 *情報提供も含む

- 頭頸部がん、膀胱がん、大腸がん患者は「①-④:再発前のタイミング」、肺がんや肝臓がん患者は「⑧:積極的治療終了後」、腎がん患者は「⑩:提供されたくない」の割合が高かった。

- ①がんの告知を受けた後
 ②完全にごんを治す(消す)ための初めての手術治療や抗がん治療を開始する前
 ③完全にごんを治す(消す)ための初めての手術治療や抗がん治療を開始した後
 ④一連の治療で完全にごんが治った(消えた)と主治医から伝えられている状態
 ⑤再発が確認されて、再度抗がん治療(薬物療法や放射線療法など)を開始した時
 ⑥再発が確認されて、抗がん治療を繰り返しているがあまり生活に支障のある副作用はないとき
 ⑦再発が確認されて、抗がん治療を繰り返しているが副作用などで生活に支障が出てきているとき
 ⑧積極的治療終了後、または効果的な手術治療やがん治療の選択肢がなくなった後
 ⑨その他
 ⑩在宅医療(在宅ケア)による治療の選択肢を提供されたくない

		(n)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
全体		(1,000)	12	4	6	6	4	20		30		12
がん種	頭頸部がん	(74)	18	4	8	14	3	18		24		11
	胃がん	(47)	13	2	17	6	4	15		28	4	11
	肺がん	(64)	9	5	5	3		23		36		13
	腎がん	(35)	20	3	3	6	6	6	31			26
	肝臓がん	(34)	9	3	9	6	6	3	24		35	6
	乳がん	(275)	10	5	5	3	5	6	22		33	9
	膀胱がん	(33)	12	3	12		18	3	24		21	3
	大腸がん	(96)	16	5	6	7	22	21		29		10
	前立腺がん	(149)	7	7	5	6	8	5	17		29	15
	子宮がん	(40)	13	8	10	3	10	5	18		20	15
	血液がん	(78)	15	3	4	5	8		22		26	15

①-④	⑤-⑦	⑧	⑩
再発前のタイミング	再発後のタイミング	積極的治療終了後	提供されたくない
28	30	30	12
43	22	24	11
32	26	28	11
20	31	36	13
31	11	31	26
26	32	35	6
24	33	33	9
45	27	21	3
34	25	29	10
26	31	29	15
33	33	20	15
27	31	26	15

○ 全体よりも5pts以上高いセグメント

※ 2%未満のグラフスコアは非表示 (%)

(%)

総括4:在宅医療(在宅ケア)の利用意向と利用したくない理由

- 「利用したい」(TOP2)の割合は38%で、「利用したくない」(BTTM2)よりも割合が高かった。
- セグメント別では、30代以下、肺がんや肝臓がん患者でTOP2の割合が高かった。
- 利用したくない理由は、「病院での医療で十分だから」の割合が最も高かった。
- セグメント別では、①③は男性、④は女性で高かった。年代別では高齢者の方が①の割合が高かった。

対象：通院治療中に在宅医療を受けた経験がない人

対象：在宅医療を利用したくない人

		(n)	利用したい	やや利用したい	どちらともいえない	あまり利用したくない	利用したくない	TOP2
全体		(978)	12	25	41	14	8	38
性別	男性	(547)	14	23	41	14	8	37
	女性	(431)	11	28	41	13	7	39
年代	30代以下	(34)	9	35	41	12	3	44
	40代	(156)	11	30	40	12	6	41
	50代	(248)	12	30	45	10	4	42
	60代	(347)	13	23	39	16	9	36
	70代	(193)	14	18	40	16	11	32
がん種	頭頸部がん	(73)	12	25	45	12	5	37
	胃がん	(44)	11	27	27	20	14	39
	肺がん	(63)	11	33	38	10	8	44
	腎がん	(33)	21	18	42	6	12	39
	肝臓がん	(31)	16	32	35	13	3	48
	乳がん	(274)	12	28	40	12	7	40
	膀胱がん	(33)	6	21	55	15	3	27
	大腸がん	(93)	9	25	41	22	4	33
	前立腺がん	(148)	16	20	41	12	11	36
	子宮がん	(39)	28	41	23	8	28	
	血液がん	(76)	18	17	45	9	11	36

利用したくない理由 (上位4項目抜粋) n=209

- ① 病院での医療で十分だから:72%
- ② お金がさらにかかりそうだから:37%
- ③ メリットがよくわからないから:32%
- ④ 家の中に他人に入ってきてほしくないから:30%

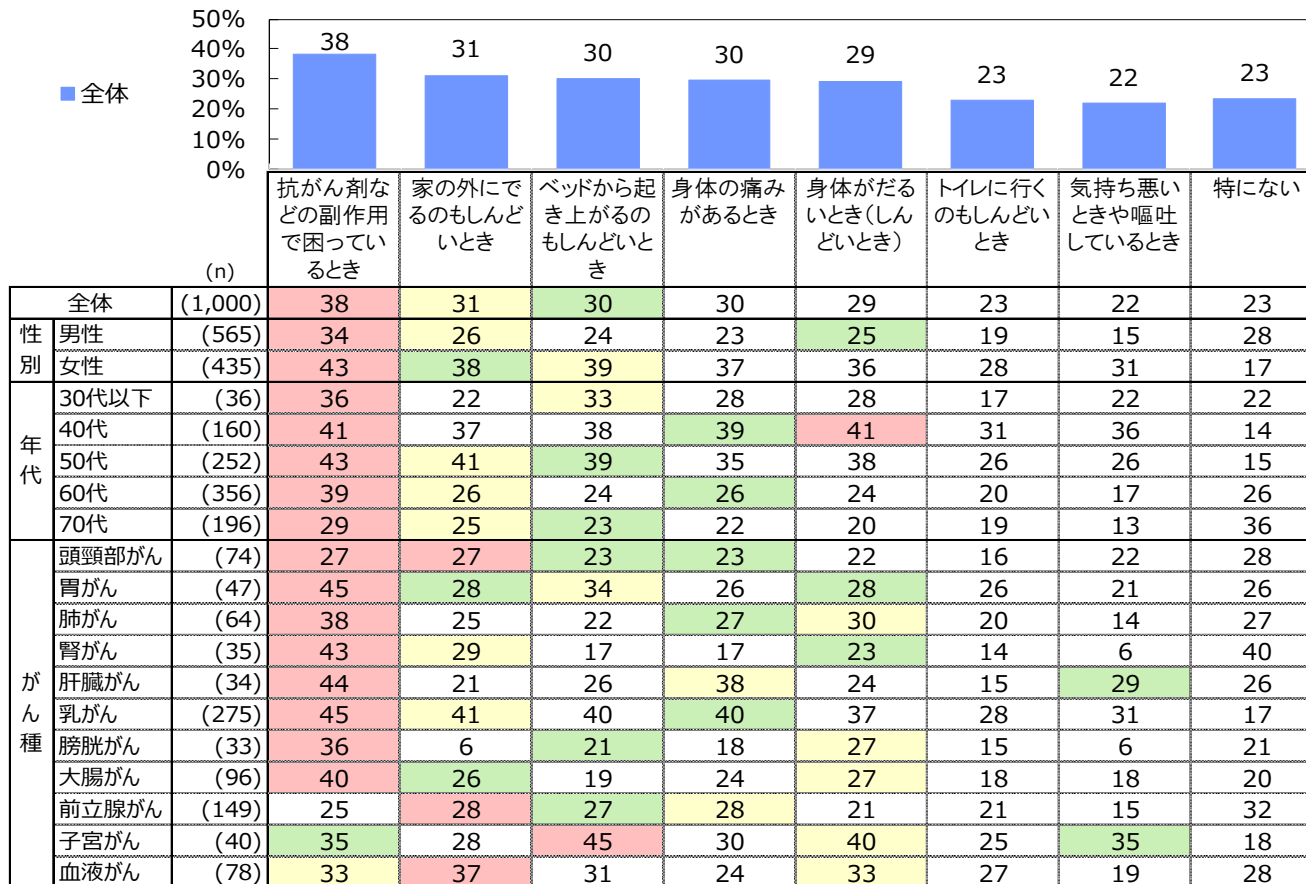
*TOP2:「利用したい」+「やや利用したい」の割合

※ 2%未満のグラフスコアは非表示 (%)

総括5:在宅医療(在宅ケア)を受けたいと思う状況 (上位7項目+「特にない」抜粋)

- 「抗がん剤などの副作用で困っているとき」の割合が38%で最も高く、次いで「家の外にでるのもしんどいとき」であった。
- セグメント別では、上位2項目以外に、40代では「身体がだるいとき」、子宮がんでは「ベッドから起き上がるのもしんどいとき」の割合が最も高かった。

対象：全員



※全体で降順ソート

(%)

まとめ①

【在宅医療の認知状況】

- 内容まで知っている(TOP2)の割合は3割程いるが、「内容まで詳しく知っている」は1割もない。30代以下では、TOP2の割合が高かった。がん種別でも認知状況の違いが若干見られた。

【在宅医療の印象】

- 「かかりつけ医が自宅まできてくれる（往診してもらえる）」と認識している割合が4割いるが、ほぼ同等の割合で「病院での医療よりもできることが少ないイメージ」とネガティブなイメージを持っている。

【望ましい在宅医療の治療選択肢の提供タイミング(情報提供も含む)】

- 「⑧:積極的治療後、または効果的な手術治療やがん治療の選択肢がなくなった後」のタイミングを希望している割合が最も高く、次いで「⑦:再発が確認されて、抗がん剤治療を繰り返しているが副作用などで生活に支障が出てきているとき」となっており、最終的な手段としての位置づけと認識している割合が高い。

【在宅医療の利用意向と利用したくない理由】

- 「利用したい」(TOP2)の割合は38%、「利用したくない」(BTTM2)は22%となっており、利用したいと考えている患者の方が多かった。
- 利用したくない理由は、「病院での医療で十分だから」の割合が72%と最も高く、次いで「お金がさらにかかりそうだから」:37%であった。

→「メリットがよくわからないから」:32%がその後に続いており、在宅医療をきちんと理解していないためにイメージがわからない患者も多いことが伺えた。

先ずは、在宅医療の詳細な内容やメリットを患者や家族にきちんと伝えていくことが望まれる。

まとめ②

【在宅医療を受けたいと思う状況】

- 「抗がん剤などの副作用で困っているとき」、「家の外にでるのもしんどいとき」や「ベッドから起き上がるのもしんどいとき」などが上位に挙げられており、どうにもならなくなった時に利用したいと思っている様子が伺えた。

→当初の予想通り、患者さんは在宅医療を最終的な手段と捉えている割合が高く、比較的元気に通院もしている段階から利用するイメージを持ちあわせている人は多くなかった。

在宅医療を治療通院している段階から利用してもらうためには、まずは在宅医療とはどういうものかを患者さんに適切に伝えていき、理解してもらうことが必要であると思われる。

例えば、在宅医療では病院と同じように〇〇ということが出来ます、早い段階からも利用できます、通院と併用することで〇〇といったメリットがあります など。

一方で、「お金がさらにかかる」、「家に他の人を入れたくない」といった理由から、在宅医療の利用を躊躇う意見も見られることから、在宅医療を治療の早い段階から浸透させるためには、今後はその辺りの対策も必要になってくるとと思われる。

追加分析:在宅医療(在宅ケア)の利便性と利用意向の関係

- 在宅医療について便利だと思う患者は、利用意向(TOP2)の割合も高い傾向が見られた。
- 一方、利便性を認識していない患者は、利用意向(TOP2)の割合も低かった。

→在宅医療の利用意向を高めるためには、利便性を認識させることが重要である。

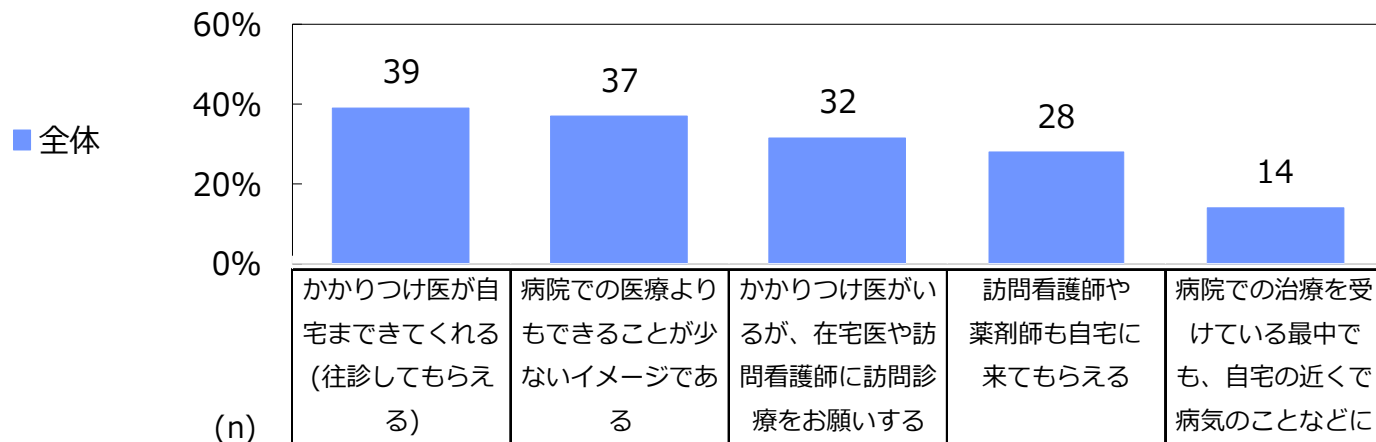
		(n)	利用したい	やや利用したい	どちらともいえない	あまり利用したくない	利用したくない	TOP2
全体		(978)	12	25	41	14	8	38
利便性	便利だと思う	(230)	43	40	15	2		83
	やや便利だと思う	(274)	7	51	36	5		58
	どちらともいえない	(380)	5	68	21	6		5
	あまり便利だとは思わない	(59)	17	54	29			0
	便利だとは思わない	(35)	6	17	77			0

※ 2%未満のグラフスコアは非表示 (%)

*TOP2:「利用したい」+「やや利用したい」の割合

追加分析:在宅医療(在宅ケア)の利便性/利用意向別の印象

- 利便性TOP2、利用意向TOP2ともに、在宅医療の印象として「かかりつけ医が自宅まできてくれる(往診してもらえる)」を認識している割合が高かった。
 - 一方で、TOP2以外の群の場合は「病院での医療よりもできることが少ないイメージである」と認識している割合が高いが、TOP2群ではその割合が低かった。
- 在宅医療とはどのようなものか認識させるとともに、ネガティブなイメージを払拭させることが利便性の認識や利用意向を高めるには重要であると思われる。



全体		(n)	39	37	32	28	14
利便性	利便性(TOP2)	(481)	45	31	36	33	19
	利便性(TOP2以外)	(423)	32	44	26	22	8
利用意向	利用意向(TOP2)	(350)	46	29	37	34	21
	利用意向(TOP2以外)	(554)	34	43	28	23	9
利便性&利用意向(ともにTOP2)		(331)	47	27	37	34	22

※全体で降順ソート


(%)


*利便性TOP2:「便利だと思う」+「やや便利だと思う」


*利便意向TOP2:「利用したい」+「やや利用したい」

IV.調査結果詳細

※数表内の網掛け

 1位の項目

 2位の項目

 3位の項目

但しn=30未満は除く、以降のページも同様

n=30未満は参考値（グレーアウト）
2%未満は横帯100%グラフ上は、非表示

現在のがんの治療状況

- ④：主治医から完治したと伝えられている状態が32%で最も割合が高かった。
- セグメント別では、40代では②、肺がんでは⑤、乳がん、前立腺がんや血液がんでは②、子宮がんでは④とともに①の割合が最も高かった。

Q1.現在のがんの治療状況をお知らせください。

- ①完全にがんを治すための初めての手術治療中
- ②完全にがんを治すための抗がん剤治療あるいは放射線治療、あるいは抗がん剤治療と放射線治療の併用治療中※手術実施前に行う術前治療も含む
- ③手術で治しきることができないため手術は行われず、初めから抗がん剤治療あるいは放射線治療、あるいは抗がん剤と放射線治療の併用治療中
- ④一連の治療で完全にがんが治ったと主治医から伝えられている状態
- ⑤再発治療中
- ⑥積極的治療終了後
- ⑦在宅医療のみ受けている状態
- ⑧緩和ケア病棟、ホスピスなどで過ごしている状態
- ⑨その他

対象：全員

		(n)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
全体		(1,000)	13	23		8		32		15	6
性別	男性	(565)	14	21		10		29		16	7
	女性	(435)	12	25		5		36		14	5
年代	30代以下	(36)	19	19		8		33		8	3 3 6
	40代	(160)	12	29		11		27		14	6
	50代	(252)	14	24		6		35		15	5
	60代	(356)	13	19		9		33		17	7
	70代	(196)	12	23		6		31		15	3 3 8
がん種	頭頸部がん	(74)	18	9	5			42		14	9
	胃がん	(47)	19	9	6			47		9	4 6
	肺がん	(64)	14	11		23		16		25	5 6
	腎がん	(35)	23		11	9		37		11	3 6
	肝臓がん	(34)	12	9	9		29		26		6 9
	乳がん	(275)	9	33		3		38		13	
	膀胱がん	(33)	12	9			48		21		9
	大腸がん	(96)	14	22		4		31		19	2 2 6
	前立腺がん	(149)	15	28		14		22		12	7
	子宮がん	(40)	28	5	3		28		15	3	5 15
	血液がん	(78)		37		12		28		15	3 5

※ 2%未満のグラフスコアは非表示 (%)

抗がん剤治療の種類（レジメン目）

- 現在行われている抗がん剤治療は、「1種類目(初回)」の割合が25%で最も高かった。一方で、「抗がん剤治療は行っていない」は42%に達した。
- 「抗がん剤治療は行っていない」は、現在のステージが「完全にがんを治す（消す）ための初めての手術治療中」、または「一連の治療で完全にがんが治った（消えた）と主治医から伝えられている状態」で多く見られた（次ページ参照）。

Q2.現在行われている抗がん剤治療は、何種類（レジメン目）になるかお知らせください。

対象：全員

		(n)	1種類目(初回)	2種類目	3種類目	4種類目以上	わからない、1種類目(初回)ではない	抗がん剤治療は行っていない
全体		(1,000)	25	13	7	7	7	42
性別	男性	(565)	29	12	7	7	7	39
	女性	(435)	21	13	7	7	8	46
年代	30代以下	(36)	17	11	14	8	6	44
	40代	(160)	24	14	4	9	4	44
	50代	(252)	25	12	8	8	6	40
	60代	(356)	26	15	7	6	6	40
	70代	(196)	27	8	7	4	11	44
がん種	頭頸部がん	(74)	20	11	5			62
	胃がん	(47)	13	11	4	9	6	57
	肺がん	(64)	28	9	13	13	14	23
	腎がん	(35)	26	14	6	6	3	46
	肝臓がん	(34)	15	21	9	6	6	44
	乳がん	(275)	22	11	7	7	8	45
	膀胱がん	(33)	24	9	3	12		52
	大腸がん	(96)	32	17	5	9	10	26
	前立腺がん	(149)	33	11	4	5		47
	子宮がん	(40)	20	10	10	3	5	53
	血液がん	(78)	27	17	14	17	5	21

※ 2%未満のグラフスコアは非表示（%）

抗がん剤治療の種類（レジメン目）_現在のがん治療状況別

- “現在”行われている抗がん剤治療となっているため、今までに抗がん剤治療を行ったことがある場合でも、現在抗がん剤治療を行っていない場合は、「抗がん剤治療は行っていない」と回答していると思われる。

Q1.現在のがんの治療状況をお知らせください。

Q2.現在行われている抗がん剤治療は、何種類（レジメン目）になるかお知らせください。

対象：全員

	(n)	1種類目 (初回)	2種類目	3種類目	4種類目 以上	わからない、1種類目(初回)ではない	抗がん剤治療は行っていない
全体	(1000)	25	13	7	7	7	42
完全にがんを治す（消す）ための初めての手術治療中	(132)	24	6	3	1	4	62
完全にがんを治す（消す）ための抗がん剤治療あるいは放射線治療、あるいは抗がん剤治療と放射線治療の併用治療中※手術実施前に行う術前治療も含む	(225)	39	18	15	7	9	13
手術で治しきることはできないため手術は行われず（切除不能のため）、初めから抗がん剤治療あるいは放射線治療、あるいは抗がん剤と放射線治療の併用治療中	(77)	36	22	13	13	8	8
一連の治療で完全にがんが治った（消えた）と主治医から伝えられている状態	(322)	18	5	1	2	6	68
再発治療中（抗がん剤治療、放射線治療、場合によっては再度手術治療を行う など）	(154)	21	25	10	19	9	16
積極的治療終了後	(14)	21	0	0	7	14	57
在宅医療（在宅ケア）のみ受けている状態	(13)	31	23	8	0	0	38
その他	(63)	13	3	2	5	6	71

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

(%)

がん治療に伴う生活上の支障の有無

- 支障がある(TOP2)の割合は39%、支障はない(BTTM2)は51%であった。
- セグメント別では、40代、胃がん、肝臓がんや大腸がん患者でTOP2の割合が高かった。

Q3.現在の日常生活において、がんの治療に伴って生じた生活上の支障はどの程度ありますか。

対象：全員

		(n)	支障がある	やや支障がある	どちらともいえない	あまり支障はない	支障はない	TOP2
全体		(1,000)	12	28	9	26	25	39
性別	男性	(565)	13	28	8	27	24	41
	女性	(435)	9	28	11	26	26	37
年代	30代以下	(36)	3	36	11	22	28	39
	40代	(160)	16	29	7	27	21	46
	50代	(252)	9	31	12	25	23	40
	60代	(356)	13	29	8	25	25	42
	70代	(196)	10	20	10	30	30	30
がん種	頭頸部がん	(74)	16	24	7	24	28	41
	胃がん	(47)	23	28	4	21	23	51
	肺がん	(64)	8	27	6	33	27	34
	腎がん	(35)	11	20	9	29	31	31
	肝臓がん	(34)	12	35	3	24	26	47
	乳がん	(275)	9	29	10	26	26	38
	膀胱がん	(33)	9	24	15	18	33	33
	大腸がん	(96)	18	36	5	26	15	54
	前立腺がん	(149)	7	24	9	30	30	31
	子宮がん	(40)	8	18	15	35	25	25
	血液がん	(78)	6	26	18	32	18	32

*TOP2:「支障がある」+「やや支障がある」の割合

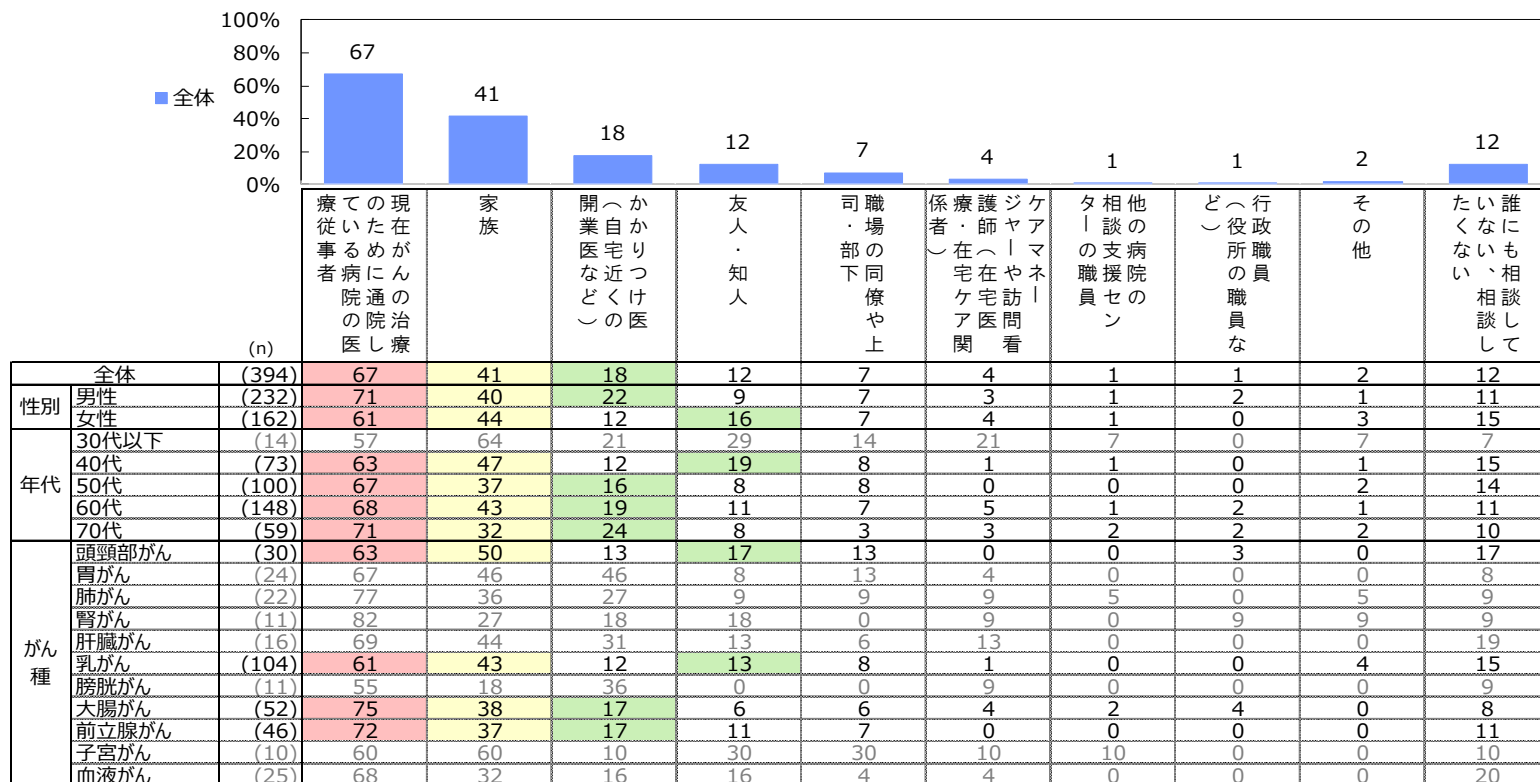
※ 2%未満のグラフスコアは非表示 (%)

がん治療に伴う生活上の支障についての相談者

- 「現在がんの治療のために通院している病院の医療従事者」の割合が67%と最も高く、次いで「家族」であった。
- セグメント別でも、違いは殆ど見られなかったが、若い世代は「友人・知人」の割合が「かかりつけ医」よりも高かった。

Q6.先ほどお答えいただいた生活上の支障について、誰かに相談していますか。
相談している人がいれば誰に相談しているかお知らせください。（いくつでも）

対象：生活上の支障がある人



※全体で降順ソート

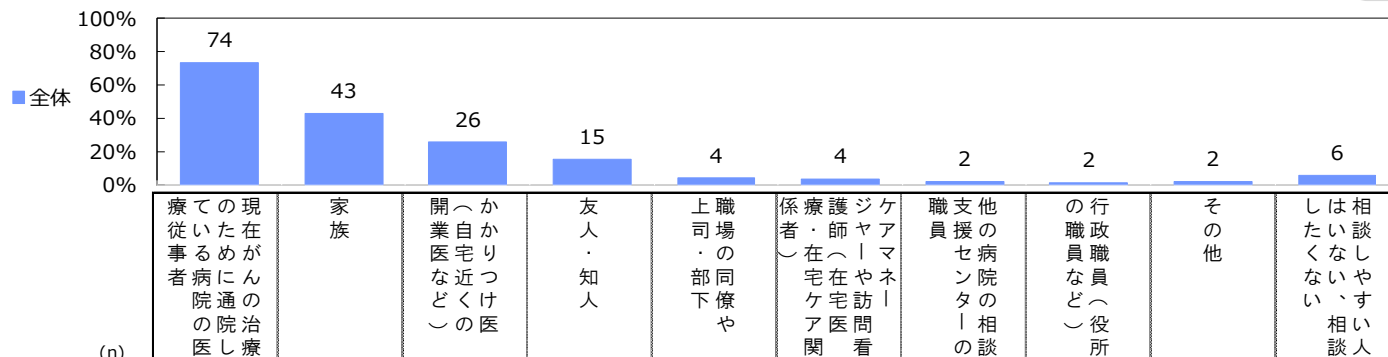
(%)

がんの治療に伴う生活上の支障を相談しやすい相手

- 現在の相談者と同様、「現在がんの治療のために通院している病院の医療従事者」の割合が74%と最も高く、次いで「家族」であった。
- セグメント別でも、違いは殆ど見られなかったが、若い世代や子宮がんの患者は、「友人・知人」の割合が「かかりつけ医」よりも高かった。

Q7.日常生活において、がんの治療に伴って生じた生活上の支障を相談する場合、どのような人だと相談しやすいかお知らせください。（いくつでも）

対象：全員



		(n)	現在の通院している病院の医療従事者	家族	開業医・近隣の自営業医	友人・知人	職場の同僚や部下	ケアマネージャーや在宅訪問看護師	支援センターの職員	行政職員（役所）	その他	相談しにくい、相談したくない
全体		(1,000)	74	43	26	15	4	4	2	2	2	6
性別	男性	(565)	76	40	30	10	4	3	1	2	1	4
	女性	(435)	70	46	20	23	5	4	3	1	3	8
年代	30代以下	(36)	53	47	19	28	14	3	6	6	0	11
	40代	(160)	73	52	18	26	6	4	5	1	3	7
	50代	(252)	72	38	26	16	7	2	1	1	3	7
	60代	(356)	75	45	27	13	3	4	1	1	2	5
	70代	(196)	78	38	29	7	1	4	1	2	1	3
がん種	頭頸部がん	(74)	81	45	26	8	4	0	0	0	1	4
	胃がん	(47)	64	40	40	9	4	2	4	4	0	9
	肺がん	(64)	88	45	20	14	3	2	0	0	0	0
	腎がん	(35)	57	43	31	14	9	11	0	6	3	6
	肝臓がん	(34)	74	32	26	12	3	3	0	9	6	6
	乳がん	(275)	69	44	23	21	4	4	3	1	3	7
	膀胱がん	(33)	64	27	30	6	3	6	0	0	0	9
	大腸がん	(96)	77	43	22	15	6	4	0	2	2	4
	前立腺がん	(149)	78	40	35	9	1	3	1	1	0	4
	子宮がん	(40)	70	60	15	30	13	0	3	3	0	10
血液がん	(78)	77	36	26	13	3	4	1	0	1	5	

※全体で降順ソート

(%)

在宅医療（在宅ケア）の認知状況

- 「名前を聞いたことがある程度」の割合が55%で最も高かった。「内容まで知っている」は38%であった。
- セグメント別では、30代以下、胃がん、肝臓がん、前立腺がんや子宮がん患者で「内容まで知っている」の割合が高かった。

Q8.ここからは在宅医療（在宅ケア）についてお伺いします。あなたは在宅医療（在宅ケア）について、どの程度知っていますか。

対象：全員

		(n)	内容まで詳しく知っている	ある程度、内容まで知っている	名前を聞いたことがある程度	知らない
全体		(1,000)	7	31	55	7
性別	男性	(565)	5	34	54	7
	女性	(435)	10	28	55	7
年代	30代以下	(36)	17	36	36	11
	40代	(160)	8	30	54	8
	50代	(252)	10	25	57	8
	60代	(356)	5	35	54	6
	70代	(196)	4	33	56	7
がん種	頭頸部がん	(74)	11	23	55	11
	胃がん	(47)	4	43	43	11
	肺がん	(64)	5	31	58	6
	腎がん	(35)	6	23	63	9
	肝臓がん	(34)	9	44	47	
	乳がん	(275)	7	28	57	8
	膀胱がん	(33)	3	24	73	
	大腸がん	(96)	6	27	57	9
	前立腺がん	(149)	3	40	49	8
	子宮がん	(40)	13	35	45	8
	血液がん	(78)	5	29	59	6

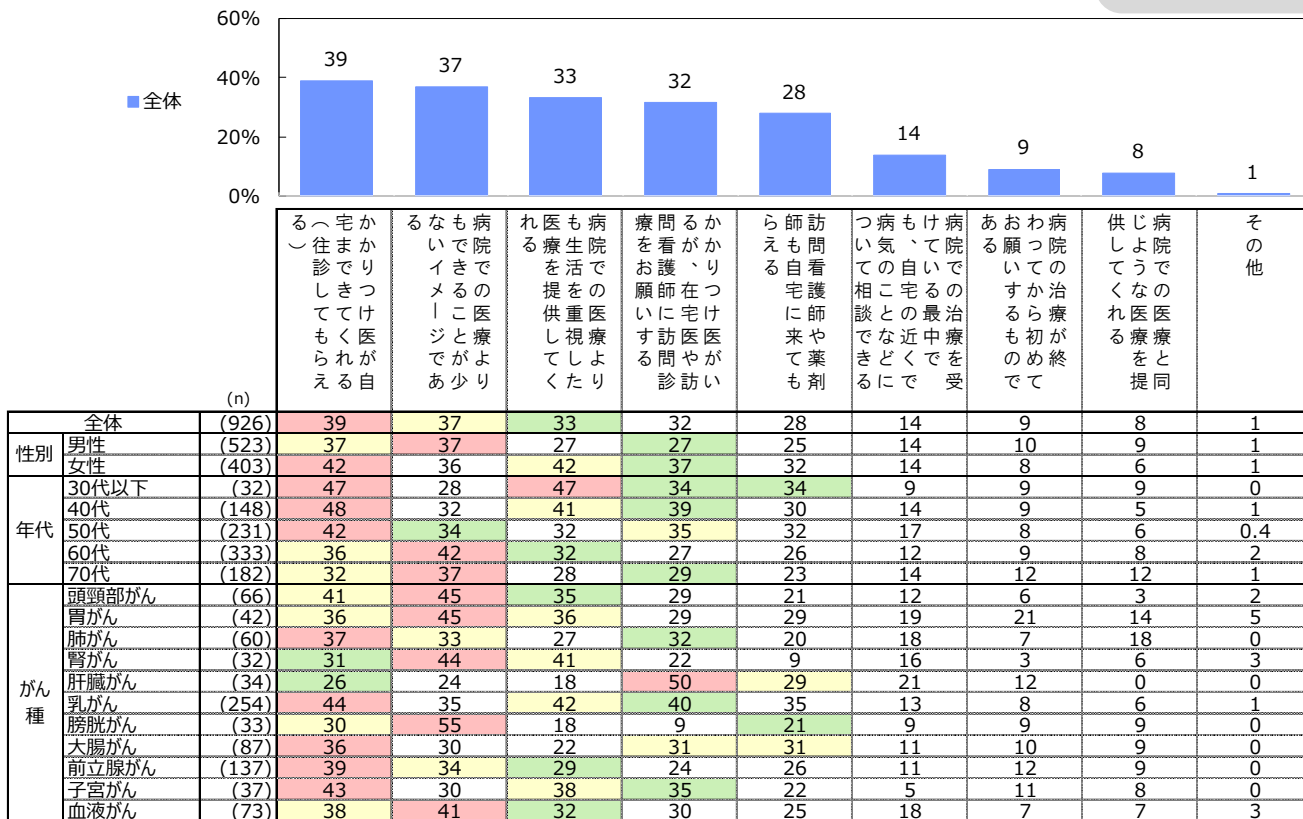
※ 2%未満のグラフスコアは非表示 (%)

在宅医療（在宅ケア）の印象

- 「かかりつけ医が自宅まできてくれる」の割合が39%で最も高く、次いでほぼ同等の割合で「病院での医療よりもできることが少ないイメージである」であった。
- セグメント別では、女性や40代以下などでは「病院での医療よりも生活を重視した医療を提供してくれる」、肝臓がんや乳がんなどでは「かかりつけ医がいるが、在宅医や訪問看護師に訪問診療を願う」の割合が高かった。

Q9.在宅医療（在宅ケア）の印象について、あてはまるものをお知らせください。（いくつでも）

対象：在宅医療（在宅ケア）認知者



性別	年代	がん種	(n)											
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
全体	(926)		39	37	33	32	28	14	9	8	1			
男性	(523)		37	37	27	27	25	14	10	9	1			
女性	(403)		42	36	42	37	32	14	8	6	1			
	30代以下	(32)	47	28	47	34	34	9	9	9	0			
	40代	(148)	48	32	41	39	30	14	9	5	1			
	50代	(231)	42	34	32	35	32	17	8	6	0.4			
	60代	(333)	36	42	32	27	26	12	9	8	2			
	70代	(182)	32	37	28	29	23	14	12	12	1			
	頭頸部がん	(66)	41	45	35	29	21	12	6	3	2			
	胃がん	(42)	36	45	36	29	29	19	21	14	5			
	肺がん	(60)	37	33	27	32	20	18	7	18	0			
	腎がん	(32)	31	44	41	22	9	16	3	6	3			
	肝臓がん	(34)	26	24	18	50	29	21	12	0	0			
	乳がん	(254)	44	35	42	40	35	13	8	6	1			
	膀胱がん	(33)	30	55	18	9	21	9	9	9	0			
	大腸がん	(87)	36	30	22	31	31	11	10	9	0			
	前立腺がん	(137)	39	34	29	24	26	11	12	9	0			
	子宮がん	(37)	43	30	38	35	22	5	11	8	0			
	血液がん	(73)	38	41	32	30	25	18	7	7	3			

※全体で降順ソート

(%)

在宅医療（在宅ケア）による治療の選択肢を提供されるタイミング

- ⑧積極的治療終了後に提供されるのが最も望ましいとする割合が最も高かった。
- セグメント別でもほぼ同様の結果であったが、70代や膀胱がんでは⑦のタイミングで望んでいる割合が最も高かった。

- ①がんの告知を受けた後
- ②完全にがんを治す（消す）ための初めての手術治療や抗がん治療を開始する前
- ③完全にがんを治す（消す）ための初めての手術治療や抗がん治療を開始した後
- ④一連の治療で完全にがんが治った（消えた）と主治医から伝えられている状態
- ⑤再発が確認されて、再度抗がん治療（薬物療法や放射線療法など）を開始した時
- ⑥再発が確認されて、抗がん治療を繰り返しているがあまり生活に支障のある副作用はないとき
- ⑦再発が確認されて、抗がん治療を繰り返しているが副作用などで生活に支障が出てきているとき
- ⑧積極的治療終了後、または効果的な手術治療やがん治療の選択肢がなくなった後
- ⑨その他
- ⑩在宅医療（在宅ケア）による治療の選択肢を提供されたくない

Q10. 医師や看護師などの医療従事者などから、在宅医療（在宅ケア）による治療の選択肢を提供される（情報提供も含む）としたら、どのタイミングで提供されたいですか。最も望ましいタイミングをお知らせください。

対象：全員

		(n)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
全体		(1,000)	12	4	6	6	4	20		30		12	
性別	男性	(565)	12	4	6	8	6	3	19		29		13
	女性	(435)	11	5	6	3	6	5	22		31		11
年代	30代以下	(36)	14	6	11	3	17		31		19		
	40代	(160)	16	6	6	3	5	21		33		9	
	50代	(252)	13	4	7	3	7	5	19		34		7
	60代	(356)	11	4	4	7	7	4	18		30		14
	70代	(196)	6	5	7	11	4	3	24		23		14
がん種	頭頸部がん	(74)	18	4	8	14	3	18		24		11	
	胃がん	(47)	13	2	17	6	4	15		28		4	11
	肺がん	(64)	9	5	5	5	3	23		36		13	
	腎がん	(35)	20	3	3	6	6	6	31		26		
	肝臓がん	(34)	9	3	9	6	6	3	24		35		6
	乳がん	(275)	10	5	5	3	5	6	22		33		9
	膀胱がん	(33)	12	3	12	18	3	24		21		3	3
	大腸がん	(96)	16	5	6	7	2	2	21		29		10
	前立腺がん	(149)	7	7	5	6	8	5	17		29		15
	子宮がん	(40)	13	8	10	3	10	5	18		20		15
	血液がん	(78)	15	3	4	5	8		22		26		15

※ 2%未満のグラフスコアは非表示 (%)

通院治療中の在宅医療（在宅ケア）経験の有無_本人

- 「経験がある」が2%、「経験はない」が98%となっており、圧倒的に経験がない患者が多かった。
- セグメント別では、肝臓がん患者で「経験あり」の割合が高かったが、違いは殆ど見られなかった。

Q11.あなたが病院に通院しながらがん治療を受けている際に、同時に在宅医療（在宅ケア）を受けた経験はありますか。

対象：全員

		(n)	経験がある	経験はない
全体		(1,000)	2	98
性別	男性	(565)	3	97
	女性	(435)	1	99
年代	30代以下	(36)	6	94
	40代	(160)	3	98
	50代	(252)	1	98
	60代	(356)	3	97
	70代	(196)	1	98
がん種	頭頸部がん	(74)	1	99
	胃がん	(47)	6	94
	肺がん	(64)	1	98
	腎がん	(35)	6	94
	肝臓がん	(34)	9	91
	乳がん	(275)	1	100
	膀胱がん	(33)	0	100
	大腸がん	(96)	3	97
	前立腺がん	(149)	1	99
	子宮がん	(40)	3	98
	血液がん	(78)	3	97

※ 2%未満のグラフスコアは非表示 (%)

通院治療中の在宅医療（在宅ケア）経験の有無_家族、友人

- 「受けている/いた方がいる」が10%、「受けている/いた方がいない」が59%となっており、経験がある方が身近にいる患者が少なかった。
- セグメント別では、胃癌患者で身近に「受けている/いた方がいる」の割合が高かったが、違いは殆ど見られなかった。

Q12.あなたのご家族や友人で、彼（ら）が病院に通院しながらがん治療を受けている際に、同時に在宅医療（在宅ケア）を受けている/いた方がいますか。

対象：全員

		(n)	受けている/いた方がいる	受けている/いた方がいない	よくわからない、答えたくない
全体		(1,000)	10	59	31
性別	男性	(565)	10	58	32
	女性	(435)	10	61	29
年代	30代以下	(36)	11	64	25
	40代	(160)	13	60	27
	50代	(252)	10	62	29
	60代	(356)	10	58	32
	70代	(196)	7	58	35
がん種	頭頸部がん	(74)	14	61	26
	胃癌	(47)	17	57	26
	肺がん	(64)	8	63	30
	腎がん	(35)	11	57	31
	肝臓がん	(34)	9	62	29
	乳がん	(275)	12	61	27
	膀胱がん	(33)	9	45	45
	大腸がん	(96)	6	61	32
	前立腺がん	(149)	9	56	35
	子宮がん	(40)	3	65	33
	血液がん	(78)	5	60	35

※ 2%未満のグラフスコアは非表示 (%)

通院治療中の在宅医療（在宅ケア）の利便性

- 「便利だと思う」(TOP2)の割合は52%で、「どちらともいえない」が39%で最も割合が高かった。
セグメント別では、30代以下や肝臓がんの患者でTOP2の割合が高かった。

Q13.あなたが病院に通院しながらがん治療を受けている際に、同時に在宅医療（在宅ケア）が受けられたら便利だと思いますか。
あなたのお気持ちにあてはまるものをお知らせください。

対象：通院治療中に在宅医療を受けた経験がない人

		(n)	便利だと思う	やや便利だと思う	どちらともいえない	あまり便利だとは思わない	便利だとは思わない	TOP2
全体		(978)	24	28	39	6	4	52
性別	男性	(547)	24	27	38	7	4	51
	女性	(431)	23	30	39	5	3	52
年代	30代以下	(34)	26	44	24	3	3	71
	40代	(156)	28	29	38	3	3	56
	50代	(248)	21	33	40	4		54
	60代	(347)	22	25	40	8	4	47
	70代	(193)	26	22	38	8	6	48
がん種	頭頸部がん	(73)	23	30	37	5	4	53
	胃がん	(44)	20	27	34	9	9	48
	肺がん	(63)	22	33	30	11	3	56
	腎がん	(33)	30	12	45	3	9	42
	肝臓がん	(31)	26	48	16	10		74
	乳がん	(274)	25	28	38	6	3	53
	膀胱がん	(33)	15	21	58	3	3	36
	大腸がん	(93)	23	26	43	6	2	48
	前立腺がん	(148)	26	24	43	3	5	49
	子宮がん	(39)	8	36	44	8	5	44
血液がん	(76)	24	32	36	7	3	55	

*TOP2:「便利だと思う」+「やや便利だと思う」の割合

※ 2%未満のグラフスコアは非表示 (%)

通院治療中の在宅医療（在宅ケア）の利用意向

- 「利用したい」(TOP2)の割合は38%で、「どちらともいえない」が41%で最も割合が高かった。
- セグメント別では、30代以下、肺がんや肝臓がん患者でTOP2の割合が高かった。

Q15.あなたが病院に通院しながらがん治療を受けている際に、同時に在宅医療（在宅ケア）が受けられたら利用したいと思いますか。
あなたのお気持ちにあてはまるものをお知らせください。

対象：通院治療中に在宅医療を受けた経験がない人

		(n)	利用したい	やや利用したい	どちらともいえない	あまり利用したくない	利用したくない	TOP2
全体		(978)	12	25	41	14	8	38
性別	男性	(547)	14	23	41	14	8	37
	女性	(431)	11	28	41	13	7	39
年代	30代以下	(34)	9	35	41	12	3	44
	40代	(156)	11	30	40	12	6	41
	50代	(248)	12	30	45	10	4	42
	60代	(347)	13	23	39	16	9	36
	70代	(193)	14	18	40	16	11	32
がん種	頭頸部がん	(73)	12	25	45	12	5	37
	胃がん	(44)	11	27	27	20	14	39
	肺がん	(63)	11	33	38	10	8	44
	腎がん	(33)	21	18	42	6	12	39
	肝臓がん	(31)	16	32	35	13	3	48
	乳がん	(274)	12	28	40	12	7	40
	膀胱がん	(33)	6	21	55	15	3	27
	大腸がん	(93)	9	25	41	22	4	33
	前立腺がん	(148)	16	20	41	12	11	36
	子宮がん	(39)	28		41	23	8	28
血液がん	(76)	18	17	45	9	11	36	

*TOP2:「利用したい」+「やや利用したい」の割合

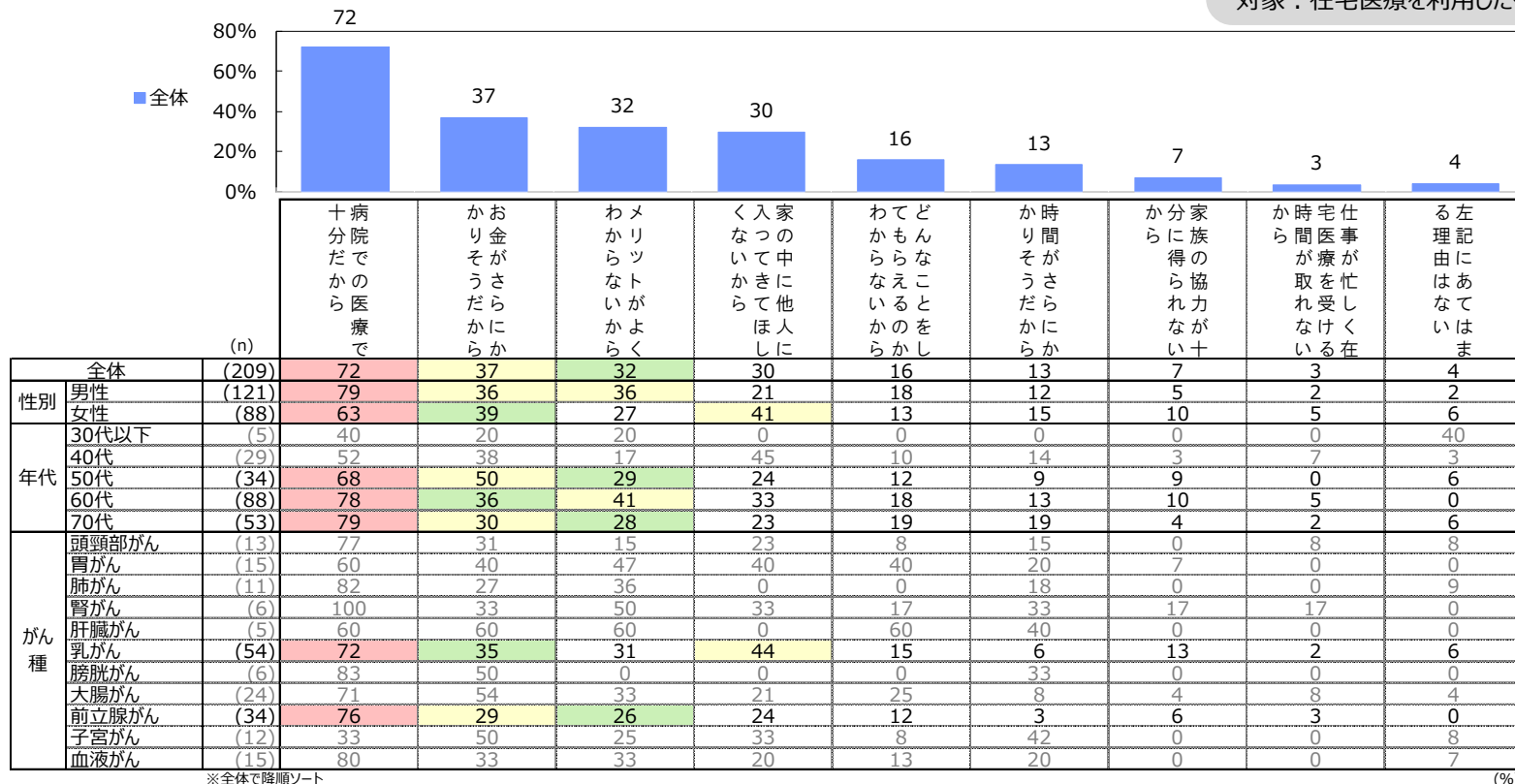
※ 2%未満のグラフスコアは非表示 (%)

通院治療中に在宅医療（在宅ケア）を利用したくない理由

- 「病院での医療で十分だから」の割合が72%で最も高く、次いで「お金がさらにかかりそうだから」であった。
- セグメント別でも、大きな違いは見られなかったが、女性や乳がん患者では「家の中に他人に入ってきてほしくないから」の割合も高かった。

Q17.先ほど、病院に通院しながらがん治療を受けている際に、同時に在宅医療（在宅ケア）を受けることができて利用したくない理由をお答えいただきましたが、以下の中に他に当てはまる理由はありますか。先ほどお答えいただいた理由と併せてお知らせください。（いくつでも）

対象：在宅医療を利用したくない人

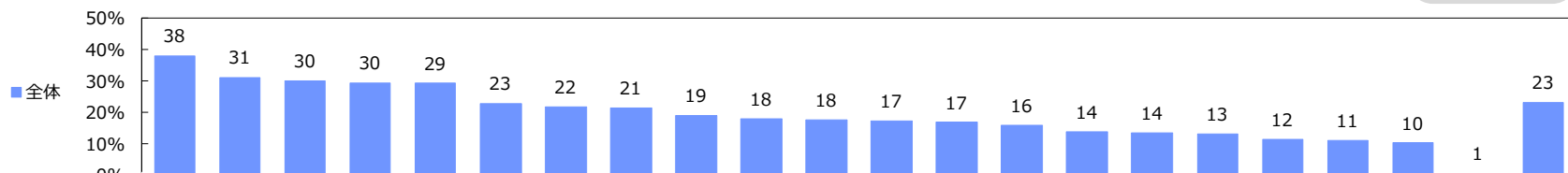


通院治療中に在宅医療（在宅ケア）を受けたくなる状況

- 「抗がん剤などの副作用で困っているとき」の割合が38%で最も高く、次いで「家の外にできるのもしんどいとき」であった。
- セグメント別では、頭頸部がん、前立腺がんや血液がんは「家の外にできるのもしんどいとき」、40代は「身体がだるいとき」、子宮がんは「ベットから起き上がるのもしんどいとき」の割合が最も高かった。

Q18.病院で通院しながら抗がん剤治療を受けている時、在宅医療（在宅ケア）を受けられたらいいなと思う状況として、あてはまるものをお知らせください。（いくつでも）

対象：全員



性別	年代	がん種	(n)	状況																					
				困っているとき	家の外にできるのもしんどいとき	ベットから起き上がるのもしんどいとき	身体がだるいとき	身体がだるいとき（しんどいとき）	トイレに行くのもしんどいとき	嘔吐しているとき	家族がいないとき	食事や食事が思わないとき	不安でたまらないとき	点滴をしてほしいとき	熱があるとき	お風呂に入るとき	息が苦しいとき	たまたまやるとき	おなかが張るとき	家族はいるけれど協力できないとき	気持ちがつかないとき	胸水がたまるとき	必要など	傷などの手当が	秘、下痢など
全体			(1,000)	38	31	30	30	29	23	22	21	19	18	18	17	17	16	14	14	13	12	11	10	1	23
男性			(565)	34	26	24	23	25	19	15	18	17	12	13	11	15	12	11	9	9	7	9	9	1	28
女性			(435)	43	38	39	37	36	28	31	26	22	26	23	25	20	21	18	19	18	17	13	12	0.5	17
	30代以下		(36)	36	22	33	28	28	17	22	14	28	19	31	28	25	11	28	17	11	17	8	11	0	22
	40代		(160)	41	37	38	39	41	31	36	26	21	26	19	25	18	23	16	19	17	13	13	10	1	14
	50代		(252)	43	41	39	35	38	26	26	26	19	21	21	21	19	17	16	19	15	15	15	11	0.4	15
	60代		(356)	39	26	24	26	24	20	17	16	19	17	16	13	16	14	11	10	13	9	10	10	1	26
	70代		(196)	29	25	23	22	20	19	13	22	17	10	14	12	14	13	12	9	8	10	8	10	1	36
	頭頸部がん		(74)	27	27	23	23	22	16	22	22	20	15	22	11	12	16	3	16	8	5	14	7	3	28
	胃がん		(47)	45	28	34	26	28	26	21	26	23	17	9	23	19	13	15	15	19	9	11	11	0	26
	肺がん		(64)	38	25	22	27	30	20	14	14	23	14	19	14	16	17	9	8	9	11	6	13	0	27
	腎がん		(35)	43	29	17	17	23	14	6	11	20	17	11	14	9	6	11	14	17	6	17	9	0	40
	肝臓がん		(34)	44	21	26	38	24	15	29	18	15	15	18	15	9	18	21	9	9	15	12	12	0	26
	乳がん		(275)	45	41	40	40	37	28	31	26	22	27	22	26	20	19	18	18	17	18	11	11	0	17
	膀胱がん		(33)	36	6	21	18	27	15	6	9	21	9	6	6	9	6	0	9	12	0	9	0	0	21
	大腸がん		(96)	40	26	19	24	27	18	18	20	15	17	11	9	15	14	9	7	10	5	11	20	1	20
	前立腺がん		(149)	25	28	27	28	21	21	15	23	15	14	13	11	17	15	15	9	12	9	11	10	1	32
	子宮がん		(40)	35	28	45	30	40	25	35	25	28	25	20	28	13	10	13	20	20	15	18	15	0	18
	血液がん		(78)	33	37	31	24	33	27	19	21	13	13	18	22	23	14	12	9	8	10	12	3	1	28

※全体で降順ソート

(%)

がん治療以外での在宅医療（在宅ケア）経験の有無

家族、友人

- 「受けている/いた方がいる」が11%、「受けている/いた方がいない」が66%となっており、経験がある方が身近にいる患者が少なかった。
- セグメント別では、違いは殆ど見られなかったが、30代以下や子宮がん患者で身近に「受けている/いた方がいる」の割合が低かった。

Q19.あなたのご家族や友人で、がん治療以外で在宅医療（在宅ケア）を受けている/いた方がいますか。

対象：全員

		(n)	受けている/いた方がいる	受けている/いた方がいない	よくわからない、答えたくない
全体		(1,000)	11	66	24
性別	男性	(565)	11	64	25
	女性	(435)	10	68	21
年代	30代以下	(36)	3	75	22
	40代	(160)	13	69	19
	50代	(252)	11	64	25
	60代	(356)	10	66	24
	70代	(196)	12	62	26
がん種	頭頸部がん	(74)	15	66	19
	胃がん	(47)	13	60	28
	肺がん	(64)	8	66	27
	腎がん	(35)	14	60	26
	肝臓がん	(34)	12	68	21
	乳がん	(275)	11	68	20
	膀胱がん	(33)	12	58	30
	大腸がん	(96)	8	70	22
	前立腺がん	(149)	9	63	28
	子宮がん	(40)	3	73	25
血液がん	(78)	9	68	23	

※ 2%未満のグラフスコアは非表示 (%)

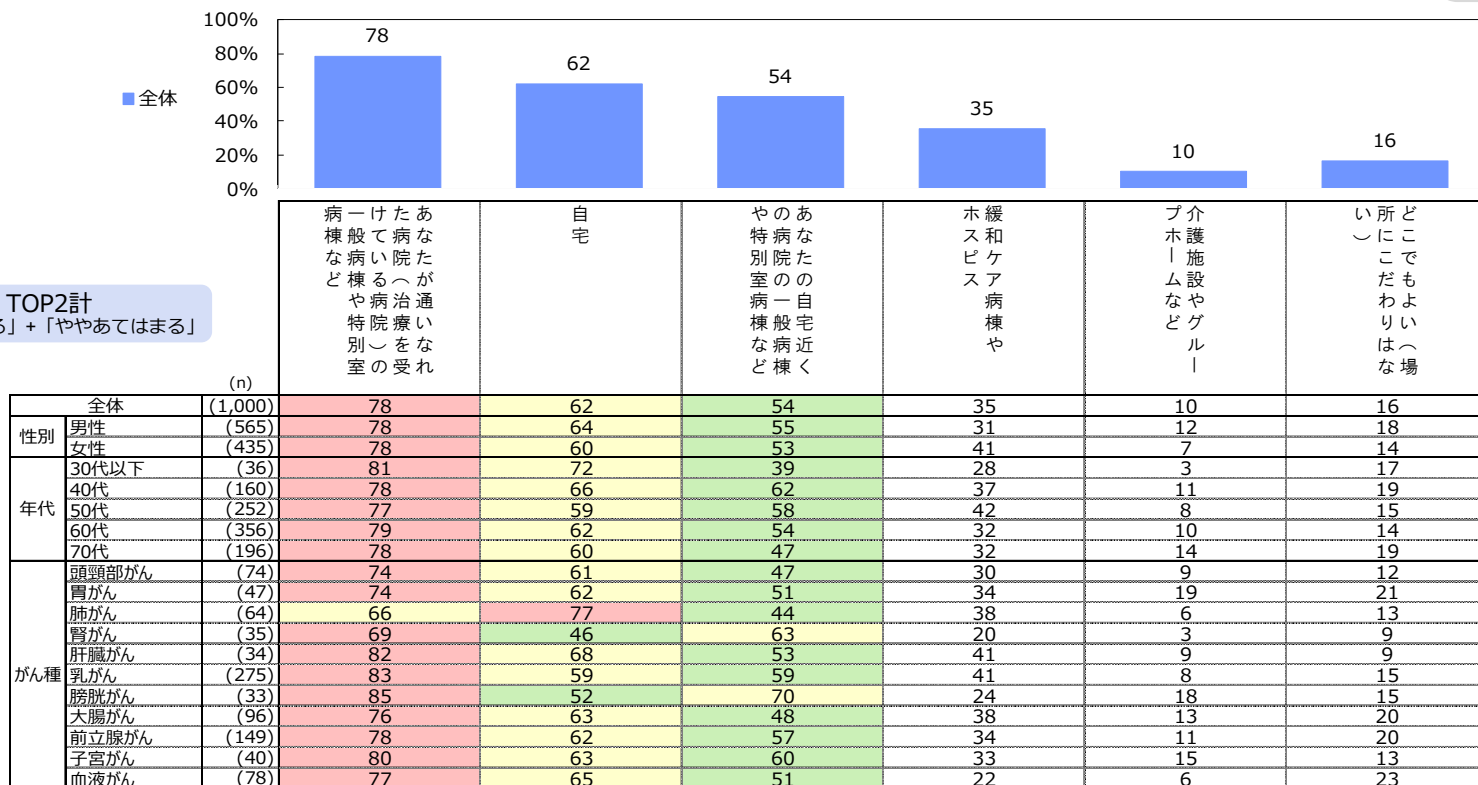
療養したい場所【TOP2一覧】

- 「通いなれた病院の一般病棟や特別室病棟など」のTOP2の割合が78%と最も高く、次いで「自宅」であった。
- セグメント別でも、違いは殆ど見られなかったが、肺癌患者は「自宅」の割合が最も高く、腎がんや膀胱がん患者は「自宅」よりも「自宅近くの病院の一般病棟や特別室病棟など」の方が高かった。

Q20.あなたが治療中に療養するとしたら、どのような場所で療養したいと思いますか。
療養場所として、あなたの考えにどの程度あてはまるかお知らせください。

対象：全員

TOP2計
「あてはまる」+「ややあてはまる」



※全体で降順ソート

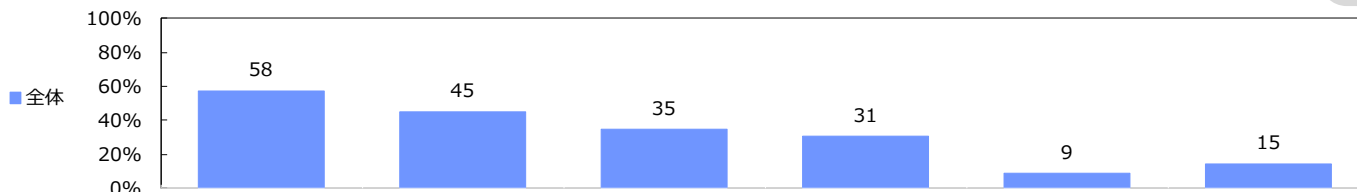
(%)

最期を迎えたい場所【TOP2一覧】

- 「自宅」のTOP2の割合が58%で最も高く、次いで「通いなれた病院の一般病棟や特別室病棟など」であった。
- セグメント別でも、違いは殆ど見られなかったが、子宮がん患者では「通いなれた病院の一般病棟や特別室病棟など」の割合が「自宅」と同等で、乳がんでは「緩和ケア病棟やホスピス」の割合も高かった。

Q22.あなたが最期を迎える時は、どこで迎えたいと思いますか。最期を迎えたい場所として、あなたの考えにどの程度あてはまるかお知らせください。

対象：全員



TOP2計
「あてはまる」+「ややあてはまる」

		(n)	自宅	病棟	ホスピス	やの特別室	プ介ホ	い所
全体		(1,000)	58	45	35	31	9	15
性別	男性	(565)	62	45	28	31	10	17
	女性	(435)	51	45	44	31	9	11
年代	30代以下	(36)	64	47	28	33	6	6
	40代	(160)	58	43	38	31	11	13
	50代	(252)	54	46	43	32	8	14
	60代	(356)	56	44	30	30	7	14
	70代	(196)	63	47	32	30	13	20
がん種	頭頸部がん	(74)	54	39	34	28	11	18
	胃がん	(47)	62	45	21	28	13	21
	肺がん	(64)	63	42	27	25	5	13
	腎がん	(35)	63	37	34	26	6	17
	肝臓がん	(34)	71	35	29	26	0	15
	乳がん	(275)	52	46	46	32	9	11
	膀胱がん	(33)	48	45	33	39	9	24
	大腸がん	(96)	55	51	29	33	9	16
	前立腺がん	(149)	68	45	32	30	13	17
	子宮がん	(40)	53	53	33	38	13	13
血液がん	(78)	51	40	26	29	5	14	

※全体で降順ソート

(%)

最近5年間程度の間に身近な人や大切な人のお看取りをした経験の有無

- 「経験がある」が35%、「経験はない」が60%となっており、「経験はない」の方が多かった。
- セグメント別では、頭頸部がん、腎がんや膀胱がん患者で「経験がある」の割合が高く、30代以下、肝臓がんや乳がん患者で割合が低かった。

Q23.最近5年程度の間で、身近な人や大切な人のお看取りをした経験についてお知らせください。

対象：全員

		(n)	経験がある	経験はない	答えたくない
全体		(1,000)	35	60	5
性別	男性	(565)	37	59	4
	女性	(435)	33	61	6
年代	30代以下	(36)	25	67	8
	40代	(160)	33	64	3
	50代	(252)	33	60	7
	60代	(356)	38	57	4
	70代	(196)	36	62	3
がん種	頭頸部がん	(74)	41	57	3
	胃がん	(47)	36	57	6
	肺がん	(64)	33	59	8
	腎がん	(35)	43	54	3
	肝臓がん	(34)	24	71	6
	乳がん	(275)	29	65	6
	膀胱がん	(33)	42	55	3
	大腸がん	(96)	39	56	5
	前立腺がん	(149)	36	60	3
	子宮がん	(40)	40	55	5
	血液がん	(78)	32	67	

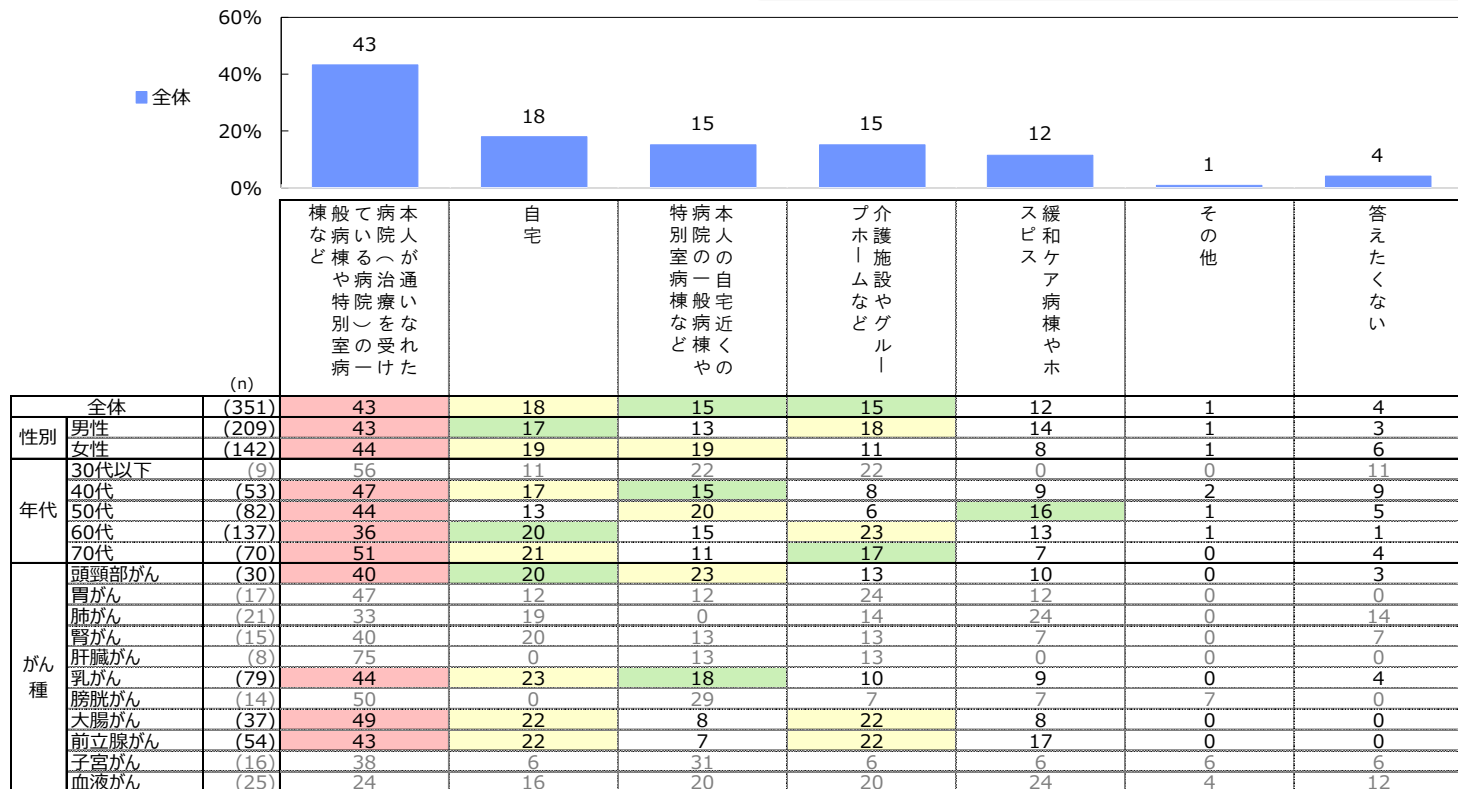
※ 2%未満のグラフスコアは非表示 (%)

最近5年間程度の間に身近な人や大切な人のお看取りをした場所

- 「本人が通いなれた病院の一般病棟や特別室病棟など」の割合が43%と最も高く、次いで「自宅」であった。
- セグメント別でも「本人が通いなれた病院の一般病棟や特別室病棟など」の割合が最も高かったが、2番目に高い割合はセグメントによって違いが見られた。

Q24.最近5年程度の間で、身近な人や大切な人のお看取りをした場所をお知らせください。(いくつでも)

対象：最近5年程度の間で、身近な人や大切な人のお看取りをした経験のある人



※全体で降順ソート

(%)

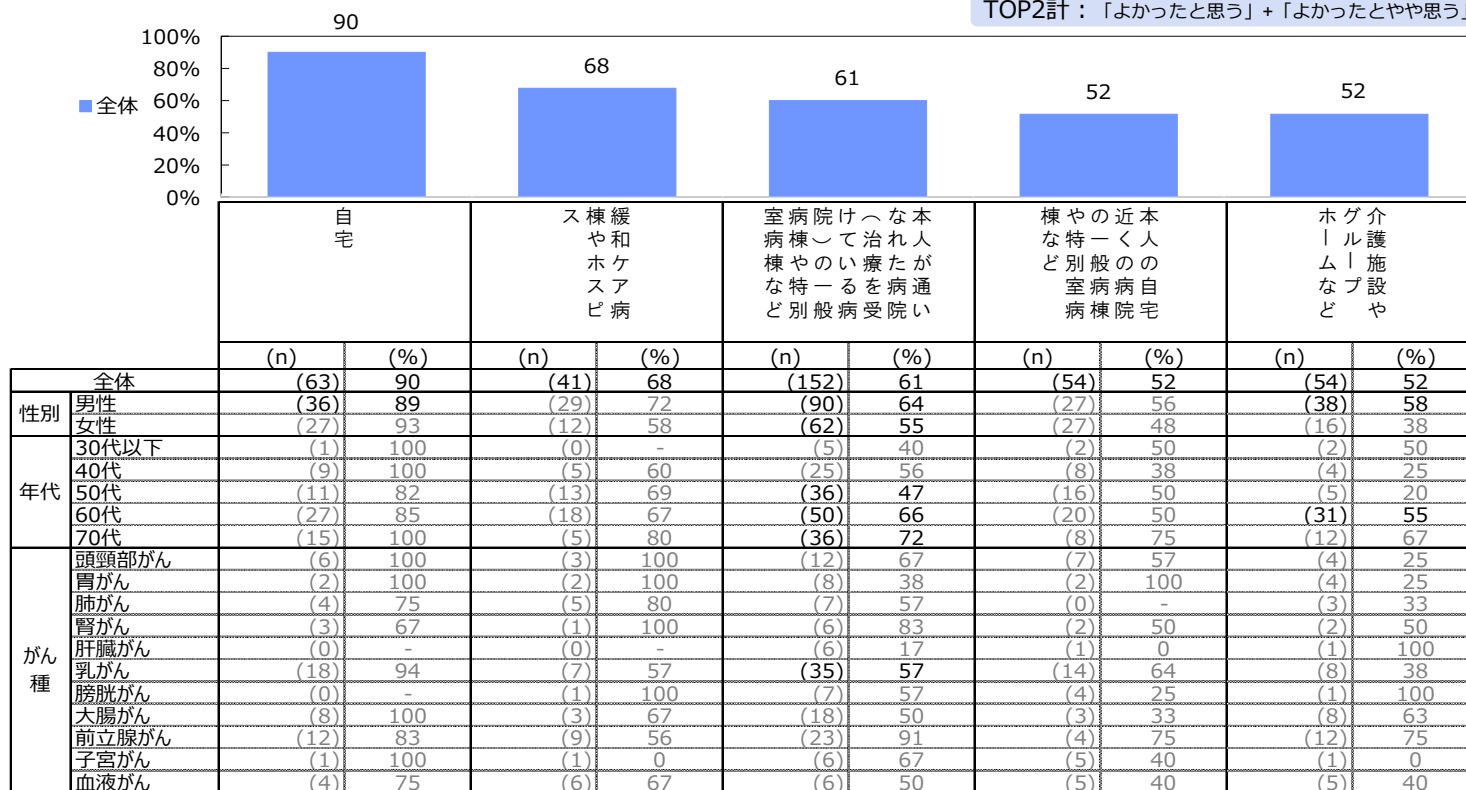
お看取りをした場所について、よかったと思う割合(TOP2)

- 「自宅」でのTOP2の割合が90%と最も高く、次いで「緩和ケア病棟やホスピス」であった。

Q25.先ほどお答えいただいた、身近な人や大切な人のお看取りをした場所について、その場所で最期を迎えられてよかったと思いますか。あなたの考えをお知らせください。

対象：身近な人や大切な人のお看取りをした人の各場所

TOP2計：「よかったと思う」+「よかったとやや思う」



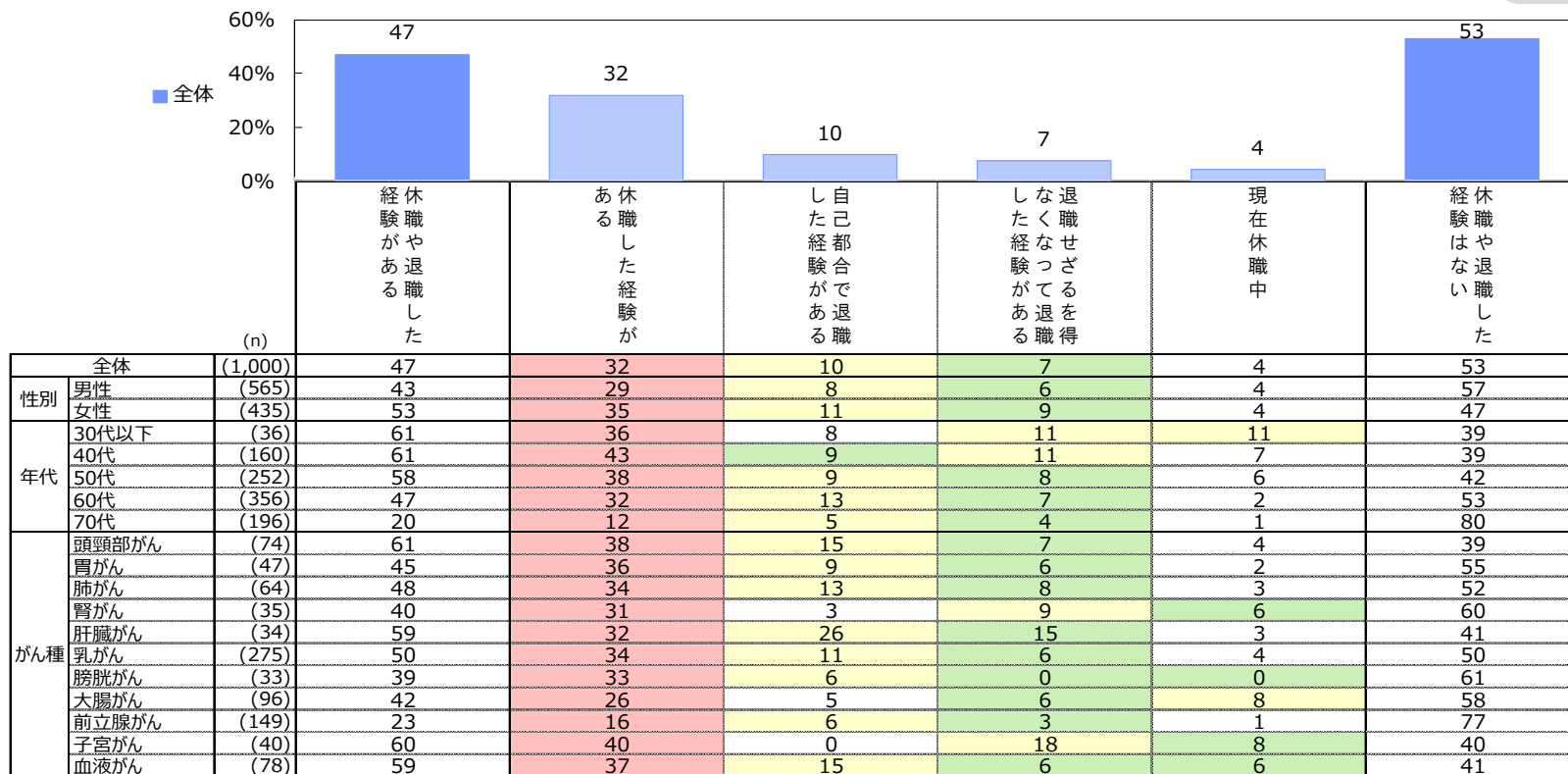
(%)

がん告知後または治療開始後の休退職の有無

- 「休職や退職した経験がある」が47%、「休職や退職した経験はない」が53%であった。
「休職や退職した経験がある」の内訳では、「休職した経験がある」が32%で最も高かった。
- セグメント別では、「休職や退職した経験がある」割合は、女性、50代以下、頭頸部がん、肝臓がん、子宮がんや血液がん患者で高かった。

Q30.あなたはがんの告知後、または治療開始後にお仕事を休職した、または辞めた経験はございますか。
あてはまるものをお知らせください。(いくつでも)

対象：全員



※全体で降順ソート

(%)

病院での医療と在宅医療（在宅ケア）を連携する際のICTの利用意向

- ICTの利用に「賛成である」(TOP2)の割合は、64%で、「賛成しない」(BTTM2)よりも高かった。
- セグメント別では、40代や前立腺がん患者でTOP2の割合が高かった。
一方、30代以下、胃がん、肺がん、子宮がん患者でTOP2の割合が低かった。

Q26.病院での医療と在宅医療（在宅ケア）を連携する際に、ICTを用いることはどのように思われますか。

対象：全員

		(n)	賛成である	やや賛成である	どちらともいえない	あまり賛成しない	賛成しない	TOP2
全体		(1,000)	30	34	31	3		64
性別	男性	(565)	33	31	31	4		64
	女性	(435)	26	39	32	3		64
年代	30代以下	(36)	17	39	39	3	3	56
	40代	(160)	28	41	27			69
	50代	(252)	30	38	28	3		68
	60代	(356)	28	33	34	3		61
	70代	(196)	36	25	33	5	2	61
がん種	頭頸部がん	(74)	28	31	36	3		59
	胃がん	(47)	26	30	38	4	2	55
	肺がん	(64)	20	33	42	3		53
	腎がん	(35)	23	37	37	3		60
	肝臓がん	(34)	32	32	26	9		65
	乳がん	(275)	27	40	29	3		67
	膀胱がん	(33)	24	39	30	6		64
	大腸がん	(96)	31	29	39			60
	前立腺がん	(149)	38	32	23	5	2	70
	子宮がん	(40)	23	33	40	5		55
	血液がん	(78)	31	29	33	5		60

*TOP2:「賛成である」+「やや賛成である」の割合

※ 2%未満のグラフスコアは非表示 (%)